財団法人 東洋文庫年報

昭和55年度

財団法人 東洋文庫

財団法人 東洋文庫年報 昭和55年度

目　次

Ⅰ　昭和55年度の東洋文庫 …… 3

Ⅱ　図書事業 …… 5

1.　図書資料の収集 …… 5

2.　図書資料の保存整理 …… 6

3.　図書資料の閲覧 …… 6

4.　資料複製増刷サービス …… 7

Ⅲ　研究事業 …… 8

1.　調査研究 …… 8

ⅰ　文部省科学研究費による調査研究 …… 8

ⅱ　一般調査研究 …… 10

ⅲ　特別調査研究 …… 12

ⅳ　研究委員会 …… 13

2.　学術図書出版 …… 14

3.　講演会 …… 15

4.　研究会 …… 16

5.　研究者養成 …… 16

6.　国内・国外研究者への便宜供与 …… 16

ⅰ　国内研究の受入 …… 16

ⅱ　外国人研究者の受入 …… 16

ⅲ　外国人研究者への便宜供与 …… 17

7. 職員の研究業績 …… 20
Ⅳ 業 務 報 告 …… 33
1. 庶 務 報 告 …… 33
2. 人 事 報 告 …… 34
3. 会 計 報 告 …… 36
Ⅴ 役 職 員 名 簿 …… 47
1. 役 員 …… 47
2. 東洋学連絡委員会委員 …… 48
3. 名 誉 研 究 員 …… 48
4. 職 員 …… 49
5. 臨 時 職 員 …… 51
Ⅵ 東洋文庫維持会 …… 62
Ⅶ 財団法人東洋文庫附置
ユネスコ東アジア文化研究センター事業 …… 63
1. 調査研究事業 …… 63
2. 学術交流及び普及，ドキュメンテーション活動 …… 66
3. 出版物の作成 …… 70
4. 業 務 報 告 …… 72
5. 役 職 員 名 簿 …… 75

I　昭和55年度の東洋文庫

本年度における最大の事業は志茂碩敏氏がイランに何回か出張し，ペルシア語の書籍を大量に，そして組織的に蒐集したことである。

蒐集はイラン政府がテヘランの米国大使館を閉鎖し，多数の館員を人質にとるという物情騒然たる間に行われた。志茂氏は数千冊の書籍を集め，梱包材料を買い調えて，これを厳重に包装し，中央郵便局に運び，或いは航空便で或いは船便でこれを発送した。政情の不安のために，最後には外国向けの郵便事務が停止されたが，志茂氏の迅速な処置はその直前に全部の蒐集を日本に送り出すことに成功した。検閲も厳重を極めたが，係り官のよき心証を得たために特に紛争も起らなかった。

志茂氏が最も意を注いだのは，新聞雑誌等のいわゆる定期刊行物の主要なものを出来るだけ完全に近い形で集めることであった。これが今回の志茂氏の蒐集の特色の第一をなすもので，利用者に多大の便宜を与えることであろう。

さらにもう一つの大きな特色は，このたびの国王の国外追放に伴ういわゆるイラン革命事件に関して刊行された大小の出版物を，漏なくとは行かないとしても，それに近い程度に蒐めたことである。その多くは路傍の露店にしか並べられていない小冊子やビラの類であるが，再版など望めないようなものがその殆どすべてである。こうしたものを集めた機関が他にあるかどうか聞かないけれども，あったとしても極めて少数であろう。この点においても志茂氏の蒐集は貴重である。

オーストラリアの首府キャンベラの国立図書館にはフランス革命に関してその当時刊行された数千のパムフレット・ビラの類が網羅的に蒐集せられ，美事に製本して整然と並べられている。それが近年専修大学が購収した同種の蒐集とどう結びつくのか知るところはないが，事1980年のイラン革命については，志茂氏の蒐集を以て恐らくその首位に推すべきものであろう。

今回のイランのいわゆる革命については，既にいくつかの著作が世に送られている。しかしそれらはいずれもいわゆる革命の途上に公にされたもので，関係の資料を精査してのものではない。庶幾くは日本の学者が志茂コレクションを資料として，ブラウン教授の「1905—09年のペルシア革命」（Edward G. Browne, The Persian Revolution of 1905—1909, Cambridge 1910）に相並ぶべき著作を公にする日の近からんことを。

志茂氏の蒐集のもう一つの特色は，それが東洋文庫だけではなく国立国会図書館のためにもなされたことである。夙にペルシア語本の系統的蒐集の必要を認めていた国立国会図書館

の当事者もまた志茂氏に蒐集を依頼した。その結果，志茂コレクションの一半は東洋文庫に蔵置せられ，一半は国立国会図書館に収容せられ，閲覧者の利用に供せられていることである。国立国会図書館はいち早くその目録を編集出版し，世人を驚かせた。1923年の関東大震災に焼亡した東京帝国大学図書館の再建のために，英国その他から寄贈せられた書物の多くが今日に至ってもまだ完全には整理されていないと言われているほど，図書の整理は時間のかかるものである。国立国会図書館が瞬時とも言うべき敏速さでペルシア語本を整理し，その目録を刊行したことは，正に神業であって，志茂氏の蒐集・包装・発送の迅速と併せて嘆服に値する偉業である。

東洋文庫にはなお若干のペルシア語本のコレクションが加えられる予定であり，京都大学にもペルシア語本の一群が購入された。国立国会図書館・東洋文庫・京都大学の蒐集を併せれば，ペルシア研究の中核となるべきペルシア語本の我国における利用が可能になろう。早くはなかったけれども，ここに至ってこうした蒐集が日本に出来上ったことは慶賀の至りであり，更めて関係者の熱意と努力とに敬意を表する。聞く所によると，三機関合同の目録の編刊も計画されているという。

ロスアンジェルスのカリフォルニア大学に大学研究図書館（University Research Library）がある。一般教養のための図書館とは別の，専門研究のための図書館を意味しているのであろう。その近東書籍主任（Near Eastern Bibliographer）ウィルスン（Dunning S. Wilson）氏から聞いたところによると，同大学では近東の諸国にそれぞれ何万ドルかづつの購書費をもった係員を派遣し，新刊本を出るに従って買っているそうである。そうした組織はカリフォルニア大学のほかにも，議会図書館を始めいくつかあるのであろうから，米国の書籍蒐集が日本とは桁違いの規模の大きさで行われていることが知られる。ウィルスン氏が時々送って来てくれる新収書目を一瞥しても，近東の出版物が刻一刻と増加しつつある様子が判る。

しかし，そうした米国の蒐書エネルギーも，事イランに関してはこの一両年空転を余儀なくされている。今回の国立国会図書館蒐集のペルシア語本について，真先きに異常な関心を示したのは，米国の議会図書館であった。その求めに応じて国立国会図書館はペルシア語本の目録を何冊か送ったという。米国のペルシア語本蒐集はイランとの政治関係の回復に伴って旧に復するのであろう。同時に日本も今後ペルシア語本の蒐集を継続して行くべきである。それがなければ今回の志茂氏の努力も次第に価値を減じて行くことになる。

図書の蒐集については年年歳歳花相似たりであってはならない。しかし，人事について歳歳年年人同じからざるは已むを得ない。今年度には東洋学連絡委員会委員の吉川幸次郎・森　鹿三・松本信広の三氏が逝去せられた。生前の東洋文庫への御支援を感謝するとともに，心から御冥福を祈る。

Ⅱ 図書事業

1. 図書資料の収集

購入・交換・受贈によって収集した資料は，一般文献資料のほか，特に中央アジア特別研究資料・東アジア特別研究資料・西アジア特別研究資料があり，昭和55年度末現在の蔵書数は610,949冊となった。

・資料購入

	和漢書	洋書	複写資料	計
一般文献資料	112冊	152冊	1リール	265
中央アジア特別研究資料	1	383	1	385
東アジア特別研究資料	947	346	24	1,317
西アジア特別研究資料	0	235	0	235
計	1,060冊	1,116冊	26リール	2,202点

・資料交換

	受贈			寄贈		
	和漢書	洋書	計	国内	国外	計
単行本(冊)	935	299	1,234冊	1,828	1,039	2,867冊
定期刊行物(冊)	2,546	908	3,454	329	351	680
計	3,481	1,207	4,688冊	2,157	1,390	3,547冊

2. 図書資料の保存整理

・製本数量

本年度の製本施工数量は下記の通りである。

区分	単行本	定期刊行物	複写資料製本	複写資料製帙	その他
数量(冊)	323	652	1,002	204	327

・撮影・焼付

区分	撮影コマ数	焼付引伸数	ポジ・フィルム作成
数量(冊)	27,542	60,732	51 リール

3. 図書資料の閲覧

・図書利用状況

本年度の所蔵図書の利用状況ならびに内訳は次の通りであった。

月	開館日数	閲覧者数	一日平均	昨年同月との比(△印は減)	閲覧図書数	一日平均	昨年同月との比(△印は減)
	日	人	人	人	冊	冊	冊
4	24	324	14弱	82	4,450	186弱	1,168
5	24	362	16弱	△13	4,372	183弱	△696
6	24	344	15弱	2	3,822	176弱	△911
7	26	559	21強	156	8,102	312弱	2,938
8	25	474	19弱	44	8,605	345弱	811
9	23	412	18弱	83	6,294	274弱	2,432
10	25	396	16弱	△22	6,752	270強	1,633
11	21	420	20	2	5,715	272強	255
12	22	365	17弱	1	4,979	227弱	△520
1	21	258	11弱	20	3,184	152弱	△1,506
2	22	247	12弱	△33	2,954	132弱	△1,144
3	24	295	12強	△84	4,369	182強	△2,411
計	281	4,456			63,597		

・閲覧図書数内訳

月	和書		漢書		洋書		合計	
	部数	冊数	部数	冊数	部数	冊数	部数	冊数
4	217	365	543	3,397	386	688	1,146	4,450
5	322	792	504	2,982	327	598	1,153	4,372
6	318	518	544	2,898	272	406	1,134	3,822
7	369	1,129	1,012	6,289	499	684	1,880	8,102
8	445	1,186	1,008	6,873	363	546	1,816	8,605
9	315	661	907	5,017	294	571	1,516	6,249
10	255	390	938	5,848	312	514	1,505	6,752
11	303	493	762	4,707	333	515	1,398	5,715
12	316	556	673	4,089	179	334	1,168	4,979
1	150	207	484	2,598	176	379	810	3,184
2	207	341	477	2,313	163	303	847	2,957
3	250	566	608	3,363	271	467	1,129	4,396
計	3,467	7,204	8,460	50,374	3,575	6,005	15,502	63,583

4. 資料複製増刷サービス

国内外の研究者・研究機関の閲覧・利用の便に供するために行なったもので，実績は下記の通りであった。

・マイクロ・フィルム

申込件数	撮影駒数	焼付引伸枚数	ポジ・フィルム
727	81,039	107,144	54,819

・電子複写

申込件数	撮影枚数
1,499	83,813

Ⅲ　研　究　事　業

1. 調 査 研 究

調査研究は，文部省科学研究費補助金によるものと，文部省民間学術研究振興費補助金による一般・特別調査研究とにわかれる。

i　文部省科学研究費による調査研究

一 般 研 究 (A)

【課題】 南アジア史研究資料の基礎的研究

【期間】 昭和 55 年度（2ヶ年継続事業初年度）

【目的】 第二次世界大戦以後，我国の南アジア史研究は急速の進歩をとげ，それに伴い国内の大学図書館や研究機関に多数の南アジア関係文献が収められるに至っている。しかし，それらの文献収集は，しばしば特定分野に偏ったものであり，必ずしも網羅的なものとはいえない。今日，我国の南アジア研究者の間で個別的研究の枠を超えた総合的な研究の必要性が叫ばれている。こうした総合的な南アジア研究のために，また，今後いよいよ数を増すと思われる研究者への便宜のために，南アジア史研究の基本資料を調査し，網羅的に収集すること，更に，資料に関する情報センターを置くことは，極めて有意義といえよう。財団法人東洋文庫は，南アジアの各時代・各分野を専攻する研究員を擁するユニークな研究機関であり，最も充実した南アジア研究資料を収蔵する機関である。本研究の目的は，当文庫のこれら研究員を動員して，南アジア史研究の基本資料を調査，収集すること，及びその成果の公開により我国の南アジア研究の進歩に貢献することにある。

【事業】 (1) 各研究分担者は，分担の研究分野において基本的資料の調査・選択を行ない，選択リストカードを作成した。

(2) 随時，研究会を開き，各自の調査・研究の成果を持ち寄り，相互に検討し，調査結果をカード化し整理するとともに，資料の収集に努めた。

(3) 基本資料は可能な限り収集し，また収集不可能なものについては，国内国外の研究機関と連絡をとり，所在を確認し，そのコピーを収集すべく努めた。

(4) 収集した文献類は，なるべく早く一般研究者の利用に供するため，その分類と整理とに力を注いだ。

【代表者】 榎　一雄

【分担者】 統括：榎　一雄
古代班：原　　實，山崎元一，松濤誠達
中世班：護　雅夫，荒　松雄，川崎信定
近世班：山本達郎，生田　滋

総合研究(A)－〔原田（辻）班〕

【課題】 仏典翻訳の対照意味論的研究

【期間】 昭和55年度（3ヶ年継続事業最終年度）

【目的】 本研究は，漢語（漢），チベット語（蔵），西夏語（西夏），ウイグル語（回），モンゴル語（蒙），満州語（満），朝鮮語（朝）の翻訳仏典における仏教用語を主たる対象として，それらの文化的語彙が一言語から，異なる文化を担い，異なる語彙体系をもつ他の言語へとどのように翻訳されたかを文法構造等との関連において，対照意味論的に分析・研究（テキストとして「法華経普門品観音経」を選定した）して，上記諸言語及びサンスクリット語（梵）それぞれの意味的構造の特徴の一端を明らかにすると同時に，言語接触ひいては文化接触における干渉の様態に関する研究，さらには個々の翻訳仏典の推定等に関する文献学的研究に，基礎的資料を提供することを目的とする。

【事業】 (1) ケース・スタディの対象として選定し整備した「法華経普門品・観音経」の対照表のうち，重要と考えられる梵・蔵・漢・回・蒙の5言語の対照表を『諸訳対照法華経普門品』（Ⅰ～Ⅲ）として編集，印刷した。
(2) 梵・漢，梵・蔵，漢・西夏，漢・回，漢・朝，蔵・蒙，蒙・満の7グループそれぞれにおいて重点的に分析の対象とした仏教用語（特に，如来，世尊，菩薩，摩訶薩，観音・観自在，有情・衆生，般若波羅密等を選定した）について，原典，翻訳時代，各言語の史的変遷等を考慮し，各言語の文法構造との関連において，対象意味論的に分析した。

【代表者】 原田　覚（故辻直四郎）
【分担者】 統括・チベット語・仏教学：原田　覚
チベット語：北村　甫

チベット語：サンスクリット語：山口瑞鳳
漢語・仏教学：金岡照光
西夏語・漢語：西田龍雄
ウイグル語：護　雅夫，庄垣内正弘
朝鮮語・漢語：河野六郎，大江孝男
蒙古語・満州語：岡田英弘

ii　一般調査研究

本年度は，特に，清代史（満蒙）研究委員会，東亜考古学研究委員会を中心に調査研究を行った。

東亜考古学研究委員会

【資料の整理】　梅原末治評議員（京都大学名誉教授）の寄贈にかかる東亜考古学資料（写真，実測図，拓本，野帖等）の整理とその目録の作成。（特に，日本の部を含む東亜の部の青銅器資料の整理とその目録の作成を行う。）（前年度の継続）（編集中）

古代史研究委員会

【資料の整理・編集】　東洋文庫所蔵中国画像名，造像名，墓碑銘等拓本の研究整理。

唐代史研究委員会

【資料の収集・整理・研究及び情報提供】　(1)国内国外に現存する西域出土古文書の所在調査と，マイクロ・フィルムによるその収集・整理。

(2)内外の諸機関，研究者に対する既収集敦煌文献資料の公開，情報の提供。

(3)敦煌吐魯番等漢文文献による『唐代法制史料集』の研究・編集・刊行。（写真編―刊行済，解説編―印刷中）

(4)内陸アジア出土古文献研究会の開催。

第1回	5月13日（火）	Peter Zieme（ドイツ民主共和国ベルリン科学アカデミー研究員）「Agriculture and its Terminology in Uigur Texts」
第2回	7月　5日（土）	山口瑞鳳「沙州漢人による吐蕃軍二部落の創設について」
第3回	10月25日（土）	池田　温，岡野　誠，堀　敏一「敦煌旅行報告」
第4回	12月16日（火）	森安孝夫「チベット文字で書かれたウイグル文仏教教理問答　pt 1292」

(5)『唐代詔勅目録』の整理・編集・刊行。（刊行済）

宋代史研究委員会

【資料の整理・研究及び情報活動】 (1)『宋会要輯稿』食貨之部の要項及び語彙索引の作成。（編集済）

(2)宋代研究文献目録及び速報の作成。（前年度の継続）

明代史研究委員会

【講読・研究】 「海瑞集」を主として，明代社会制度に関する文献の購読・研究。（毎月２回研究会の開催）

近代日本研究委員会

【資料の収集・研究】 近代化における欧米列強と東アジアないし日本との国際関係，および近代日本と大陸諸民族との国際関係について，国際政治のみならず，国際経済の資料をも収集し，これらの世界史的性格を総合的に研究する。

清代史（満洲・蒙古）研究委員会

【校訂本・訳註の作成】 (1)「旧満州檔」・「満文老檔」記事対照表の作成。

(2)東洋文庫所蔵鑲紅旗満州都統衙門の檔案（主として満文）の研究・整理。（『鑲紅旗檔―乾隆朝―』作成）（編集済）

朝鮮研究委員会

【資料の収集・研究】 (1)朝鮮法制書の調査収集，およびその購読。

(2)李氏朝鮮の民政関係史料の収集・整理・研究。（前年度の継続）

(3)漢字の朝鮮音韻の研究・調査。

中央アジア・イスラム研究委員会

【資料の収集・研究】 (1) 隊商貿易史の研究。

(2)中央アジア・トルコ諸民族史の研究。

(3)イスラム社会の構造の研究。

(4)トルコ・日本両国の近代化の比較研究。

(5)イスラム国家論・都市論の月例研究会の開催。

第１回　５月２３日　小山皓一郎，加藤和秀，花田宇秋「イスラムの歴史家達(1)」（シンポジウム）

第２回　６月２０日　木村喜偉「現代シリアの政治」

第３回　７月１８日　八尾師　誠「イラン革命見聞記」

第４回　１０月　３日　福田安志「エジプトの灌漑農業について」

第5回　11月28日　禿　仁志「イラン見聞記」
第6回　1月30日　志茂碩敏，佐藤次高，鈴木　董「イスラムの歴史家達(2)」（シンポジウム）
第7回　2月27日　菊池忠純「エジプトにおける最近の中世史研究」
第8回　3月27日　浜田正美「スーフィーの夢」

南方史研究委員会

【資料の研究・編集】 (1)『東洋文庫所蔵インド関係図書分類目録』の編集。（編集中）
(2)インド古代社会に関するサンスクリット語，パーリー語，漢文資料を，マイクロ・フィルム，その他によって網羅的に収集し，その調査，分類を行う。

Ⅲ　特別調査研究

チベット研究委員会

【目　　的】 チベット人との協同によるチベットの歴史・言語・宗教・社会の総合的研究
【研究課題】 『チベット語文語辞典』の編纂
【事業内容】 (1) チベット語文語辞典編纂のための調査・研究
①前年度に引続き，すでに「語彙用例集」の作成が決定している「宗義大成」ゲルク派の章について，テキストと邦訳との整備を進めた。
②前年度までにテキストの邦訳を整備した「宗義大成」カギュ派の章のテキストについて，単語・文を分割し，機械処理（データ・パンチ，校正，修正）を進めた。
③「3世ダライラマ年代記」の機械処理を進めた。
④前年度に機械処理（データ・パンチ，校正，修正）を終了した「宗義大成」シチエ派の章，「維摩経」について，「語彙用例集」を作成した。
⑤「敦煌出土チベット年代記」のテキストと邦訳との整備を進めた。
(2) チベット関係文献の収集・整理
本年度は，とくにペリオ蒐集チベット語文献のコピーをマイクロ・フィルムで収集し，整理した。
(3) 研究成果の刊行
①『スタイン蒐集チベット語文献解題目録―第5分冊―』　B5判　1冊　（刊行済）
②『チベット民話資料集（Ⅱ）』　B5判　1冊　（刊行済）

近代中国研究委員会

【目的・研究課題】 近・現代中国研究関係資料の収集・整理とこれらの書誌的研究。
【事業内容】 (1) 共同利用研究

本年度上半期は，その方面の世界有数の碩学であり，香港・新亜研究所教授である東洋文庫招聘研究員の全　漢昇博士（昭和55年3月～9月）と，従来の研究においてもっとも立ちおくれている計量的な中国経済史全般に就て情報交換を行い，また，中国社会科学院歴史研究所副所長・林　甘泉研究員（昭和56年2月13日）等と情報交換を行った。

(2) 情報交換及び参考業務（近代中国研究事務室及び同参考図書室に於て，常時遂行）

(3) 図書・資料の収集

区　　分	和　漢　書	洋　　書	複写資料
数　　量	812 冊	56 冊	6 リール

(4) 研究成果の刊行

①『近代中国研究彙報　第3号』　A5判　1冊　（刊行済）

(5) その他の継続事業

①中国を中心とする東アジア国際関係史資料の書誌的研究。

②『東洋文庫所蔵近代中国関係図書分類増補目録（中文・日本文・欧文）』の作成。

③『東洋文庫所蔵近・現代中国関係資料件名目録』の編集。

iv　研究委員会

研究部の研究事業を企画実施する研究委員会は，5部門12研究委員会にわかれる。昭和55年度の各研究委員会の常任委員は以下のとおりである。

第1部　中国研究

東亜考古学：梅原末治，小山　勲，関野　雄，渡辺兼庸

古代史：越智重明，宇都木　章，神矢法子，河野六郎

唐代史（敦煌文献）：榎　一雄，池田　温，菊池英夫，土肥義和，藤枝　晃，松本　明

宋代史：青山定雄，草野　靖，佐伯　富，斯波義信，周藤吉之，竺沙雅章，中嶋　敏，古垣光一，渡辺紘良

近代中国：市古宙三，河鰭源治，滋賀秀三，田中正俊，並木頼寿，新村容子，坂野正高，本庄比佐子，山根幸夫

第2部　近代日本研究

近代日本：岩生成一，海野一隆，田中時彦，鳥海　靖，亀井　孝，酒井憲二

第3部　東北アジア研究

満州・蒙古（清代史）：榎　一雄，岡田英弘，神田信夫，松村　潤

朝鮮：河野六郎，末松保和，田川孝三，森岡　康

第4部　中央アジア・イスラム・チベット研究

中央アジア・イスラム：榎　一雄，梅村　坦，後藤　明，佐藤次高，清水宏祐，志茂碩敏
永田雄三，花田宇秋，本田實信，護　雅夫

チベット：榎　一雄，川崎信定，北村　甫，原田　覚，松濤誠達，山口瑞鳳
テンパ・ゲルツェン

第5部　インド・東南アジア研究

南方史：荒　松雄，生田　滋，岩生成一，榎　一雄，後藤均平，原　實，松本信広
三根谷　徹，山崎元一，山本達郎

2. 学術図書出版

東洋文庫欧文紀要

"Memoirs of the Research Department of the Toyo Bunko." No. 38.
1980年刊　B5判　227頁

東洋文庫和文紀要

『東洋学報』第62巻1・2号　昭和55年12月刊　A5判　220頁

『東洋学報』第62巻3・4号　昭和56年　3月刊　A5判　264頁

東洋文庫各種研究委員会刊行物

唐代史研究委員会

『唐代詔勅目録』　昭和56年3月刊　B5判　720頁

近代中国研究委員会

『近代中国研究彙報』第3号　昭和56年3月刊　A5判　127頁

チベット研究委員会

『スタイン収集チベット語文献解題目録—第5分冊—』　昭和56年3月刊　B5判
130頁

『Texts of Tibetan Folktales (II)』（『チベット民話資料集（II）』）昭和56年

3月刊　B5判　338頁

東洋文庫諸目録其他刊行物

『A Classified Catalogue of Books in Foreign Languages in the Toyo Bunko Acquired during the Years 1917--1977. Section Ⅲ. China.』（『東洋文庫洋書分類目録—中国之部—』）　昭和55年12月刊　B5判　746頁

『東洋文庫新着図書目録—和書・中国書・朝鮮書—』第28号　昭和55年8月刊　B5判　88頁

『財団法人東洋文庫書報』第12号　昭和56年3月刊　A5判　114頁

『財団法人東洋文庫年報』昭和54年度版　昭和55年10月刊　A5判　60頁

3. 講演会

春期　東洋学講座（第319～322回）

（テーマ：アジア史の時代区分）

武田幸男　「朝鮮史の時代区分について—とくに古代国家をめぐって—」（5月27日）

堀　敏一　「中国史の時代区分問題—前近代を中心に—」（6月3日）

護　雅夫　「北アジア史におけるウイグル帝国時代」（6月10日）

山崎利男　「インド史の時代区分について—とくに中世成立に関して—」（6月17日）

秋期　東洋学講座（第323～326回）

（テーマ：南海を中心とするアジア史）

榎　一雄　「アジア史と海洋」（10月21日）

田中健夫　「室町幕府と琉球」（10月28日）

和田久徳　「東南アジアと港市国家」（11月4日）

大庭　脩　「長崎貿易における東南アジアの商人たち」（11月11日）

（なお，春秋二季の各講演の要旨は，『東洋文庫書報』第12号に掲載されている。）

特別講演会

全　漢昇　「16～18世紀的中・菲・美貿易」（7月15日）

L・ランチオッティ　「エズラ・ルーミス・パウンドと支那人講師との交渉」（9月27日）

呉　緝華　「中国近代史学の発展」（2月10日）

4. 研 究 会 （東洋文庫談話会）

柳田征司　「江戸時代初期における抄物作成活動―『国語大辞典』の「抄物」の項・補訂―」（12月6日）

小山皓一郎　「オスマン朝初期のスルタン位継承」（1月31日）

高橋孝助　「太平天国後の体制回復策の一面―余蓮村の場合―」（2月21日）

新村容子　「清末四川省における局士―郷紳の存在形態をめぐって―」（3月28日）

（なお，この研究会の発表要旨は，『東洋文庫書報』第12，13号に掲載される。）

5. 研 究 者 養 成

チベット研究　1名　原田　覚「吐蕃仏教の研究」

中 国 研 究　2名　並木頼寿「捻軍史を中心とする清末華北農村社会の研究」

新村容子「清末地主制の研究」

6. 国内・国外研究者への便宜供与

i 国内研究者の受入

日本学術振興会流動研究員　北海道大学助教授　小山皓一郎「初期オスマン朝国家の国制」（昭和55年4月より10ヶ月間）

日本学術振興会流動研究員　愛媛大学助教授　柳田征司「仮名抄の成立についての研究―特に「非仮名抄」と「書入れ仮名抄」とから見た―」（昭和55年4月より10ヶ月間）

日本学術振興会奨励研究員　吉野　誠「李朝末期開港後の社会変動に関する研究」（昭和55年度1年間）

文部省内地研究員　宮城教育大学助教授　高橋孝助「中国近代地主制の研究」（昭和55年度下半期）

東洋文庫奨励研究員　神矢法子「漢唐間における家礼の規範的展開と礼俗」（昭和55年度1年間）

ii 外国人研究者の受入

全　漢昇　香港新亜研究所教授　「東洋文庫所蔵中国経済史数量資料の調査研究」（昭和54年度国際交流基金の招聘による）（昭和55年3月以降6ヶ月間）

黄　浿江　大韓民国檀国大学校教授　「古代及び中世における韓国・日本の神話，並び

に文学の比較研究とその資料調査」（昭和 53 年 9 月から同 55 年 8 月まで 2 ケ年間）

Tenpa Gyaltsen　東洋文庫招聘研究員　「東洋文庫チベット研究委員会による『チベット語文語辞典』の編纂協力」（昭和 54 年度以降）

iii　外国人研究者への便宜供与

Australia

呉　緝　華	Professor, Senior Research Fellow of Department of Far Eastern History, The Australian National University
蘇　基　朗	Research Fellow of Department of Asian History, The Australian National University
黄　宇　和	Sydney 大学講師

Denmark

Zurnodolfer	Leiden 大学講師

France

Frédéric Girard	日仏会館研究員
Guilaine Mala	日仏会館研究員
小杉恵子	パリ国立図書館司書

Germany

Peter Zieme	Orientalist, Institute of Ancient History and Archaeology, Academy of Science of GDR, Berlin

Italy

Lionello Lanciotti	Professor, Istituto Universitario Orientale di Napoli
Carlo Chiese	Professor, Istituto Italiano di Culture

Korea

李　盛　雨	漢陽大学校教授
尹　世　完	韓国精神文化研究院
李　竜　保	韓国朝鮮大学校師範大学助教授
李　旺　世	韓国大使館書記官
金　泰　俊	明知大学校教授
崔　京　烈	韓国国立中央図書館

張　在弘	韓国国立中央図書館
閔　成基	釜山大学校（中国史）
朴　元熇	〃　〃
鄭　世鉉	淑明女子大学校教授
韓　基斗	円光大学校教授

Netherlands

C. Kceman	Professor, National University of Utrecht
Benton Gregor	Amsterdam 大学講師

People's Republic of China（中華人民共和国）

呉　鴻漢 ほか	中国国際書店縮微出版科科長
宦　郷	中国社会科学院副院長　北京大学教授
黄　逸峰	上海社会科学院院長
王　剛	中国社会科学院外事局副局長
厳　中平	〃　経済研究所副所長
何　方	〃　世界政治研究所研究員
蔡　美彪	〃　近代史研究所研究員
李　沢厚	〃　哲学研究所研究員
万　峰	〃　世界歴史研究所研究員
樊　駿	〃　文学研究所研究員
林　甘泉	〃　歴史研究所副所長
胡　厚宣	〃　〃　研究員
劉　永成	〃　〃　副研究員
陳　高華	〃　〃　〃
石　光	遼寧社会科学院副院長
林　耀貨	北京中央民族学院民族研究所所長
清格尓泰	中国・内蒙古大学
确精扎布	〃
張　承志	中国社会科学院民族研究所（歴史室）
葉　倫	〃　新聞研究所
Fu Mao－ji	〃　民族研究所
徐　琳	〃　〃
蔡　少卿	南京大学歴史系教授
唐　長孺	武漢大学歴史系教授
楊　寛	上海復旦大学歴史系教授

Republic of China (中華民国)

徐　先　堯	国立台湾大学教授
五　世　慶	美国亜洲学会台湾研究小組研究員
何　懿　玲	国立台湾大学歴史学研究所
林　添　福	台湾省各省歴史渕源発展研究学会常務理事
李　栄　村	台湾中央研究院
魏　栄　志	台湾中央図書館研究員

United Kingdom

Mervyn Yeatman	Chief Executive, Japanese Library Service of B.H. Blackwell L T D..
Yu－ying Brown	Senior Research Fellow, Department of Oriental Manuscripts and Printed Books, The British Library.
Robert E. Bedeski	Asociate Professor of Political Science, Carletom University.
スーザン　マウントジョイ	Sheffield 大学大学院生

U.S.A.

Kathryn Bernhaldt	Stanford 大学大学院生
Timothy Brook	Harvard 大学研究生
Grobowki	Chicago 大学研究員
James	Yale 大学助教授
Robert N. Weiss	Washington 大学大学院生
R.D. Arkush	University of Iowa
石　漢　椿	California State 大学教授
ブライド　ストック	Harvard 大学研究員
T.P. Massey	University of Michigan

U.S.S.R.

Iouri V. Roumiatsev	Deputy Director, U.S.S.R. Government Tourist Information Bureau.
Alla P。Chiltova	Associated Professor, Faculty of History and Letters.
Alexander M. grigoriev	Institute of Scientific Information on Social Sciences, Academy of Sciences of the U.S.S.R.

7. 職員の研究業績

（期間：昭和55年4月1日～昭和56年3月31日まで）

略号：①…著書　②…編書　③…論文　④…学会動向　⑤…書評・紹介　⑥…翻訳
⑦…講演・研究発表　⑧…その他（評論・雑記・座談会等）

荒　松雄

③「デリー現存の基建築とロディー支配層」（山本達郎博士古稀記念『東南アジア・インドの社会と文化（上）』，51～84頁，山川出版社，1980年12月），⑤「山崎元一著『インド社会の新仏教』」（史学雑誌89－12，87～88頁，史学会，1980年12月），⑥「フランソワ＝ベルニエ著『大ムガル帝国誌』3，4」（小名康之と共訳，月刊シルロードⅥ－3，4，10～14頁，16～20頁，1980年4，5月）。

池田　温

②『敦煌の社会』（≪講座・敦煌第3巻≫，大東出版社，1980年8月，485頁），③「敦煌の流通経済」（『講座・敦煌第3巻』，297－343頁，大東出版社，1980年8月），⑤「堀敏一・山崎利男編『概説東洋史』」（史学雑誌89－6，1048～61頁，山川出版社，1980年6月），「近代中国関係文献目録刊行委員会編『近代中国関係文献目録1945－78』」（史学雑誌89－10，1609～10頁，1980年10月），「鈴木俊著『均田，租庸調制度の研究』」（史学雑誌89－12，1860～61頁，1980年12月），「律令研究会編，滋賀秀三著『唐律疏議訳註篇（一）』」（法制史研究30，328～32頁，1981年3月），「（吉田孝氏と共同執筆）小林宏・高塩博「律疏考」」（法制史研究30，241～43頁，1981年3月），⑦「古代日本摂取中国典籍問題」（国際漢学会議歴史考古系，1980年8月16日），「中国における簡牘研究の位相」（木簡学会大会，1980年12月6日），⑧「中国の律令」（江上波夫等編『8世紀の日本とアジア（4）律令制と国家』，9～33頁，平凡社，1980年4月），"L'épée d'Inariyama — à propos de le découverte récente d'une inscription japonaise ancienne"（Journal Asiatique Tome CCLXVⅢ，PP.379～397，1980），「敦煌旅游断章」（東方13，1～4頁，東方書店，1981年1月）。

岩生成一

①『明治以前洋馬の輸入と増殖』（日蘭学会，1980年11月，193頁），③「日蘭380年親交の緒リーフデ号の来航」（日本歴史389，52～54頁，吉川弘文館，1980年11月），⑦「史伝ジャカタラお春」（学士会館午餐会講演，1980年2月）。

海野一隆

③「地球説伝来以前 ― 日本人の大地像を探る ―(1)(2)」(自然 35 ― 7, 8, 80 ～ 87, 63 ～ 70 頁, 中央公論社, 1980 年 7 月, 8 月), 「福島喜太郎氏所蔵屏風世界図日本図について(1)(2)」(月刊古地図研究 11 ― 5, 6, 2 ～ 6, 2 ～ 5 頁, 日本地図資料協会, 1980 年 7 月, 8 月), " Geographical Thought of Chinese People " (『 Geographical Languages in Different Times and Pldces 』 PP. 91 ～ 93, The Japanese Commission on the History of Geographical Thought of the 24th I.G.U. Congress in Japan, 1980 年), " A World-Dividing Theory Originating in India " (同, PP. 110 ～ 113), " Japan before the Introduction of the Global Theory of the Earth in Search of a Japanese Image of the Earth " (Memoirs of the Research Dept. of the Toyo Bunko 38, PP. 39 ～ 69, 東洋文庫, 1980 年), 「アロースミスの太平洋図帖」(月刊古地図研究 12 ― 1, 2 ～ 4 頁, 日本地図資料協会, 1981 年 3 月), 「中国における歴史地図の変遷」(『唐宋時代の行政経済地図の作製・科研費研究成果報告書』, 3 ～ 38 頁, 1981 年 3 月), ⑧「対談 (杉浦康平氏と) ・古地図を読む, 世界図・日本図」(みづゑ 908, 60 ～ 79 頁, 美術出版社, 1980 年 11 月)。

梅村　坦

③「敦煌探検・研究史」(『講座・敦煌』第 1 巻 ≪敦煌の自然と現状≫, 127 ～ 241 頁, 大東出版社, 1980 年 4 月), 「住民の種族構成 ― 敦煌をめぐる諸民族の動向 ―」(『講座・敦煌』第 3 巻 ≪敦煌の社会≫, 197 ～ 223 頁, 大東出版社, 1980 年 8 月), ⑦「敦煌と千仏洞」(日本大学史学会大会, 1980 年 6 月 28 日), ⑧「≪シルクロード≫の探検」(柏市市民講座, 1981 年 2 月 14 日)。

榎　一雄

①『東西文明の交流』(≪第 5 巻　西欧文明と東アジア≫, 平凡社, 1980 年 4 月 ＜再版＞, 462 頁), ②『敦煌の自然と現状』(≪講座・敦煌 第 1 巻≫, 大東出版社, 1980 年 4 月, 442 頁), 『敦煌の歴史』(≪講座・敦煌　第 2 巻≫, 1980 年 7 月, 484 頁), ③「外国人の記録に見えたる敦煌」(『講座・敦煌』第 1 巻, 245 ～ 381 頁 ＜但し, 文中紹介史料の邦訳は, 蔀　勇造, 志茂碩敏, 大島立子, 菅野裕臣の諸氏による＞, 1980 年 4 月), 「漢魏時代の敦煌」(『講座・敦煌』第 2 巻, 1 ～ 37 頁, 1980 年 7 月), " Confucian Women in Theory and in Reality ". (In : La Donna nella Cina Imperial e nella Cina Republicana a cura di Lionello Lanciotti, Firenze : Leo S. Olschki Editore, 1980, pp. 1―22.), 「董恂とその著書　特に日記について(3)」(近代中国 7, 88 ～ 100 頁, 厳南堂書店,

1980年2月），「董恂とその著書　特に日記について(4)」（近代中国8，119～129頁，1980年10月），「橘瑞超の沙漠漫遊記」（月刊シルクロードⅦ－1，3～13頁，シルクロード社，1981年1月），「ヨーロッパとアジア（19～29）：イタリア商人カルレッティのこと（6～16）」（月刊シルクロードⅥ－2～Ⅶ－2，1980年2月～1981年2月），④「ボクサー教授の学績」（東方学60，137～166頁，東方学会，1980年7月），「ローマン＝ギルシュマン博士の訃」（東洋学報62－1・2，196～215頁，東洋文庫，1980年2月），「敦煌学と東洋文庫」（聖教新聞，1980年7月8日），「大谷探検隊の意義」（知識21，108～111頁，1981年1月），⑤「影印＜北宋刊本＞『通典』推薦のことば」（汲古書院広告パンフレット，1980年4月），「近刊満洲語書籍目録 ―特にフランス国立図書館所蔵本の目録について―」（東方学61，146～156頁，1981年1月），「白鳥庫吉著『西域史研究』（上），（下）へのあとがき」（同書下巻643～663頁，岩波書店，1981年3月），「リュセット＝ブルノア著，長沢和俊・伊藤健司訳『シルクロード。〔絹シルク〕文化の起源をさぐる』」（東洋学報62－1・2，158～171頁，1980年12月），「中央アジア旅行記（1～10）」（日本古書通信45－6～46－3，1980年6月～1981年3月），「私立大学への助成」（言論春秋107，1980年8月18日），「イランの動乱」（言論春秋113，1980年9月29日），「財団法人の再生」（言論春秋119，1980年11月10日），「暴力生徒」（言論春秋132，1980年2月9日），「1980年読書アンケート」（みすず246，36～38頁，みすず書房，1981年1月），「南蛮漂流譚(1)，(2)」（山紫水明102・103，26～29・20～23頁，1981年1月・3月），⑦「支那史上における敦煌」（東洋文庫春期東洋学講座，1979年5月22日，要旨：東洋文庫書報11，161～164頁，1980年3月），「中央アジアの都市の性格」（東洋文庫秋期東洋学講座，1979年11月20日，要旨：東洋文庫書報11，174～177頁，1980年3月），⑧「辻直四郎先生の逝去を悼む」（東方学60，205～210頁，1980年7月），「東洋文庫年報巻頭言＜理事長 辻直四郎博士の逝去を悼む＞」（昭和54年度東洋文庫年報，3～4頁，1980年10月），「歴史の顔をした作り話の横行」（朝日ジャーナル22－18，65～67頁，1980年5月2日），「日本書紀の吐火羅と舎衛」（朝日ジャーナル22－33，43～45頁，1980年8月15・22日号）。

越智重明

③「井田と轅田」（『池田末利博士古稀記念東洋学論集』，211～224頁，池田末利博士古稀記念事業会，1980年9月），「六朝の良・賤をめぐって」（史学雑誌89－9，1～35頁，史学会，1980年9月），「周礼の財政制度・田制・役制をめぐって」（九州大学東洋史論集9，1～32頁，九州大学文学部東洋史研究会，1981年3月）。

大島立子

③「元時代」(『講座・敦煌』第2巻 ≪敦煌の歴史≫, 363～397頁, 大東出版社, 1980年7月), 「考古学上よりみた敦煌(下)—宋代以降の遺蹟」(同上, 471～484頁), 「元代戸計と徭役」(歴史学研究 484, 23～33頁, 青木書店, 1980年9月), ⑥全漢昇著「香港における中国経済史研究」(東方学 60, 166～169頁, 東方学会, 1980年9月), 石璋如著「李濟先生事略」(東洋学報 62—1・2, 179～195頁, 東洋文庫, 1980年12月)。

岡田英弘

①『国際誤解と日本人 新しい日本人のイメージ』(田中美知太郎らと共著, 三修者, 1980年12月, 202頁)。③「陸士同期留学生の中国革命」(中央公論 1124, 166～181頁, 中央公論社, 1980年8月), 「日本を愛した中国人 陶晶孫の生涯と郭沫若」(中央公論 1129, 184～199頁, 1980年12月)。④「第17回野尻湖クリルタイ」(通信 40, 37～41頁, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所, 1980年11月), 「第17回野尻湖クリルタイ」(東洋学報 62—1・2, 172～178頁, 東洋文庫, 1980年12月)。⑤「鳥居竜蔵著『中国の少数民族地帯をゆく』・周達生著『中国民族誌 雲南からゴビへ』」(週刊読書人 1351, 4頁, 株式会社読書人, 1980年10月6日)。⑦「日本建国前のアジア情勢」(横浜市文化教育センター, 1980年11月13日, 記録:文化講演記録集6「いま, ふたたび日本を視る」, 37～55頁), 「中国 その過去・現在・未来」(日本文化会議カルチャー・セミナー, 1981年2月10日, 記録:文化会議 142, 15～23頁)。⑧「'80年は"おんなの時代"か」(正論 77, 62～71頁, サンケイ出版, 1980年4月), 「ソ連の野望と中国の没法子」(対談, 諸君! 12—6, 70～81頁, 文芸春秋, 1980年6月), 「国際協力の理想を求めて 文化の多様性と近代化」(座談会, 読売新聞 37336, 12～13頁, 読売新聞社, 1980年7月2日), 「龔定庵の悪筆」(サンケイ新聞夕刊 13629, 5頁, 産業経済新聞東京本社, 1980年7月11日), 「フロンティアとしての女」(月刊カレント 17—9, 42～44頁, カレント出版委員会, 1980年9月), 「中国史のなかの日本建国」(無限大 50, 23～30頁, 日本IBM, 1980年9月), 「大平合同葬の七不思議」(諸君! 12—9, 52～59頁, 文芸春秋, 1980年9月), 「中国病の研究」(月曜評論 502, 1頁, 月曜評論社, 1980年9月15日), 「文化の時代と女の開発」(世界日報 2066, 1頁, 世界日報社, 1980年10月12日), 「国民党と台湾人」(海外事情 28—11, 6～13頁, 拓殖大学海外事情研究所, 1980年11月), 「病める中国」(月曜評論 523, 1頁, 1981年2月2日), 「中国人の性意識」(月刊健康 203, 9～10頁, 月刊健康発行所, 1981年3月)。

河鰭源治

⑤朱宗震・薛瑞禄・林金樹「韋昌輝偽造“天王密詔”説 ―関于太平天国“天京政変”的一点看法 ―(『中国農民戦争史論叢 <第一輯>』)」(近代中国 8, 10～20頁, 巌南堂書店, 1980年10月), ⑧「グラビア <太平天国軍> 写真選択・解説」(市古宙三共同, 月刊歴史教育 19, 東京法令出版, 1980年10月)。

神田信夫

③「征服王朝の役割」(『概説東洋史』, 70～79頁, 有斐閣, 1979年7月), 「清朝興起史の研究 ― 序説『満文老檔』から『旧満洲檔』へ」(明治大学人文科学研究所年報 20, 20～30頁, 明治大学, 1979年12月), 「中国征服王朝・清朝」(月刊シルクロード 6―2, 47～51頁, シルクロード社, 1980年2月), 「清代史の研究と檔案」(駿台史学 50, 173～189頁, 駿台史学会, 1980年9月), “From *Man Wen Lao Tang* to *Chiu Man* ― *chou Tang*” (Memoirs of the Research Department of the Toyo Bunko 38, 71～94頁, 東洋文庫, 1980年), ④「明清 (1)」(『日本における歴史学の発達と現状 V』, 280～284頁, 288～294頁, 東京大学出版会, 1980年2月), 「中国第一歴史檔案館訪問記〔海外東方学界消息 60〕」(東方学 61, 157～162頁, 東方学会, 1981年1月), ⑤「京大東洋史辞典編纂会編『新編東洋史辞典』」(週刊読書人 1344, 1980年8月11日), 「J.M. ピュイレモン編『フランス国立図書館所蔵満洲本目録』」(東洋学報 62―3・4, 217～220頁, 東洋文庫, 1981年3月), ⑦“Patents of Hereditary Arrow Commandership” (第五回東亜アルタイ学会, 台北, 国立故宮博物院, 1979年12月29日, 『Proceedings of the Fifth East Asian Altaistic Conference』, 96～102頁, Taipei, 1980年), 「清帝国の盛衰」(鎌倉市民大学, 1980年3月14日, 19日), 「清朝初期の二三の問題について」(遼寧社会科学院歴史研究所, 1980年6月24日), 「中国の明清 案研究」(第17回野尻湖クリルタイ, 1980年7月14日), 「中国の中世・近世の文明」(東京コミュニティカレッジ, 1980年11月17日, 12月1日, 8日), ⑧「『旧満洲檔』の研究をより前進させる」(中外日報 22524, 1980年1月31日), 「私と北京語」(暁の鐘 8, 1980年4月1日), 「学部長にきく 101年以降のわが学部の展望(座談会)」(明治大学広報 120, 1980年11月1日), 「あとがき」(阿南惟敬著『清初軍事史論考』, 634～637頁, 甲陽書房, 1980年11月), 「中国研究への新しい光」(学術月報 33―8, 24～27頁, 日本学術振興会, 1980年11月), 「文学部における専攻の再検討」(明治大学広報 124, 1981年2月1日)。

菊池英夫

③「隋・唐王朝支配下の河西と敦煌」(『講座・敦煌』第2巻，99～194頁，大東出版社，1980年7月)，「唐代敦煌社会の外貌」(『講座・敦煌』第3巻，91～147頁，大東出版社，1980年8月)，④「中国法の"基本原理"についての従来の研究」(歴史学研究 484，13～22頁，歴史学研究会，1980年9月)，⑤「池田温著・編『中国古代籍帳研究』」(社会経済史学 46－2，104～106頁，社会経済史学会，1980年7月)，「布目潮渢『白居易の判を通じて見たる唐代の復讐』」・「室永芳三『唐末内侍省における鞫獄の性格と機能について』」(法制史研究 30，350～351，353～354頁，法制史学会，1981年3月)，⑦「抗租闘争の諸問題 ― 討論のための問題提起 ―」(北大東洋史談話会主催夏期全国シンポジウム基調報告，1980年8月2日，要旨印刷中)。

小山皓一郎

⑦「イスラムの歴史家達(1)」(シンポジウム：イスラム国家論・都市論月例研究会，東洋文庫，1980年5月23日)，「トルコ共和国憲法の用語」(シンポジウム：中東の社会変化とイスラムに関する総合的研究，1980年12月20日)，「オスマン朝初期のスルタン位継承」(東洋文庫談話会，1981年1月31日，要旨：東洋文庫書報 12，113～114頁，東洋文庫，1981年3月)。

後藤　明

①『メッカ・メディナ』(嶋田襄平等共著『世界の聖域 ⑤』，講談社，1979年11月，159頁)，『ムハンマドとアラブ』(『オリエント選書 6』，東京新聞出版局，1980年12月，232頁)，③「イラン革命にみる国家とイスラム」(歴史評論 360，1980年4月，7～12頁)，「イスラム世界の伝統的政治思想における「合意」について」(中東通報 274，1981年1月，1～8頁，「ヒジュラ前後のメディナの政情」(オリエント 23－2，1981年3月，59～77頁)，"The Introduction of a Modern Educational System in Egypt"(East Asian Cultural Studies 20，1981年3月，57～79頁)，④「第7章西アジア，第2節前近代」(『日本における歴史学の発達とその現状 V』，東京大学出版会，1980年2月，360～367頁)，⑤「東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所『Studia Culturae Islamicae，8(1979)～13(1979)』」(オリエント 23－1，1980年9月，181～182頁)，「堀内勝著『砂漠の文化 ― アラブ遊牧民の世界 ―』・片倉もとこ著『アラビア・ノート ― アラブの原像を求めて ―』」(オリエント，23－1，1980年9月，182～183頁)，⑦「アラブの征服とアラブ意識の成立」(中東の社会変化とイスラムに関する総合的研究シンポジウム社会分科会，1979年12月，同報告と討論の記録2，社会分

科会，57～64頁），「メッカ」（アジア・アフリカにおけるイスラム化と近代化に関する調査研究プロジェクト第2回研究会，1980年9月27日），「「族」的結合の機能と意味」（シンポジウム「アラブとは何か」，1980年10月4日），「歴史における少数者と権力」（中東の社会変化とイスラム化に関する総合的研究合同分科会：アラブ分科会，1980年12月19日），「中東 ― 歴史的視点より ―」（中東の社会変化とイスラム化に関する総合的研究全体会議，1981年1月17日），⑧「座談会・牧畜社会研究の諸問題，（季刊人類学 11―2，1980年6月，3～94頁），「イスラム教徒の生活」（『地理資料シリーズ』1学期②，帝国書院，1981年）。

佐伯　富

③「科挙の歴史」（『受験の世界史』，3～9頁，聖文社，1980年5月），「塩から見たる中国古代史」（大谷大学研究年報 33，1～60頁，大谷大学，1981年2月）。

佐藤次高

③「アミール・キトブガーへの覚え書」（東洋史研究 39―4，53～78頁，1981年3月），⑦「アラブ都市論」（中近東文化センター，シンポジウム：アラブとは何か，1980年10月3日），「イスラム世界の特質」（地中海学会12月月例研究会，上智大学，1980年12月13日），「アラブにおける歴史学の展開」（東洋文庫・イスラム国家論研究会，1981年1月29日），⑧「ナイルの増水祈願」（歴史と地理 306，36～37頁，1981年2月）。

酒井憲二

②『寛永諸家系図伝』（校訂協力，続群書類従完成会，第二 1980年6月，278頁，第三 1980年12月，270頁）。『新明解国語辞典（第三版）』（編集協力，三省堂，1981年1月），③「写本と版本の一つの谷間 ― 甲陽軍鑑の場合 ―」（『佐藤茂教授退官記念・論集国語学』，393～418頁，桜楓社，1980年10月），「猫またよや考」（リポート笠間 21，4～7頁，笠間書院，1980年10月），「甲陽軍鑑の成立と伝来をめぐって」（原本現代訳『甲陽軍鑑』研究篇，487～498頁，教育社，1980年11月），「甲陽軍鑑末書について（承前）」（図書館短期大学紀要 17，86～100頁，1981年1月），「奥の細道冒頭の読み ― 百代と江上と ―」（日本文学研究 20，75～79頁，1981年1月），⑧『国語（一～三）』（文部省検定済，中学校国語科用教科書，共編，光村図書，1981年2月）。

志茂碩敏

③「Īl Khān 国成立後の『Ādherbaījān 軍政府』起源の軍隊について」（アジア・

アフリカ言語文化研究 19，15～48頁，1980年8月），「Ghāzān Khān 歿後の Īl Khān 国におけるモンゴル諸勢力の消長について」（アジア・アフリカ言語文化研究 21，74～110頁，1981年3月），⑧「唯我独尊氏西へ行く」（東洋文庫書報 12，51～61頁，1981年3月）。

斯波義信

③「宋代江南の水利と定住について」（『唐・宋時代の行政・経済地図の作成』科研費研究成果報告書，87～97頁，1981年3月），⑤「今堀誠二著『中国封建社会の構造 ― その歴史と革命前夜の現実 ―』」（法制史研究 30，332～337頁，法制史学会，1981年3月），「今堀誠二著『中国封建社会の構造』」（比較都市史研究会会報 7―2，3頁，比較都市史研究会，1981年2月），「河原由郎著『宋代社会経済史研究』」（社会経済史学 46―5，93～97頁，社会経済史学会，1981年2月），⑦「明治期日本来住華僑について ― 函館の事例を中心に ―」（社会経済史学会近畿部会夏季シンポジウム，1980年7月22月）。

滋賀秀三

③「唐律令における『婦人』の語義 ― 梅村恵子氏の批判に答えて」（国家学会雑誌 ―5，128～142頁，1980年5月），「唐代における律の改正をめぐる一問題 ― 利光三津夫・岡野誠両氏の論考に寄せて」（法制史研究 30，153～158頁，1981年3月），⑤「山本達郎著「敦煌発見の消費貸借に関する一史料 ― British Library 所蔵 A. Stein 将来漢文文書 S. 8433」」（法制史研究 30，355頁，1981年3月）。

周藤吉之

①『高麗朝官僚制の研究 ― 宋制との関連において ―』（法政大学出版局，1980年 12月，538頁）。

末松保和

③「好太王碑文研究の流れ ― 水谷悌二郎氏の研究を中心として ―」（『東アジア世界における日本古代史講座第3巻』，176～219頁，学生社出版，1981年3月），" The Development of Studies of the King Hao―t'ai 好太王 Inscription : with Special Reference of the Research of Mizutani Teijiro "（Memoirs of the Research Department of the Toyo Bunko 38，pp. 1～37，1980）。

田川孝三

③「李朝後半期における地域社会の諸問題」(『李朝に於ける地方自治維織並びに農村社会経済語彙の研究』科研費研究成果報告書，61～84頁，1980年3月)。

竺沙雅章

③「『永楽大典』解題」(『天理図書館善本叢書』第11巻，1～12頁，八木書店，1980年7月)，「元代白雲宗の一考察」(『仏教史学会三十周年記念・仏教の歴史と文化』，321～339頁，同朋社，1980年11月)，「宋代福建の地方財政と寺院財産」(『中国史上における宗教行政と地域社会』科研費研究成果報告書，18～25頁，1981年3月)，⑦「元世祖の江南宗教政策」(史学会大会，1980年11月9日，要旨：史学雑誌89―12，77～78頁，1980年12月)，⑧「蘇東坡略年譜」(『開館五周年記念展 ― 鉄斎・東坡の世界』，2頁，鉄斎美術館，1980年4月)。

鶴見尚弘

③「士大夫・郷紳の社会」(『概説東洋史』，80～90頁，有斐閣，1979年7月)。

土肥義和

③「唐代均田制の給田基準攷 ― とくに吐魯番盆地の実例を中心に ―」(『隋唐帝国と東アジア世界』，215～250頁，汲古書院，1979年8月)，「帰義軍(唐後期・五代・代)時代」(『講座・敦煌』第2巻≪敦煌の歴史≫，235～296頁，大東出版社，1980年7月)，「莫高窟千仏洞と大寺と蘭若と」(『講座・敦煌』第3巻≪敦煌の社会≫，347～369頁，1980年8月)，⑧「後記」(島崎昌著『隋唐時代の東トゥルキスタン研究』，東京大学出版会，577～583頁，1977年3月)。

鳥海　靖

②『木戸幸一日記・東京裁判期』(伊藤　隆氏らと共編，東大出版会，1980年7月，502頁)，『田中正造全集・別巻』(編集・解題執筆，543～555頁，岩波書店，1980年8月)，『伊藤博文関係文書・第9巻』，塙書房，1981年2月，286頁)，③"Was the Emperor Meiji Really a Puppet ?"(Japan Echo Ⅶ―2，pp. 107～117，June 1980)，⑧「第一次世界大戦と日本」・「太平洋戦争と占領下の日本」(安田元久編『テキストブック日本史』，363～408頁，有斐閣，1980年7月)，「今月の日本史」(歴史読本 25―7，25―14，26―3，170～171頁，220～221頁，新人物往来社，1980年6月・11月，1981年3月)，「社会科教科書にみる日本とアメリカ」(文化会議 139，40～43頁，日本文化会議，1981年1月)。

中嶋　敏

③「西夏支配時代」(『講座・敦煌』第2巻≪敦煌の歴史≫，341～361頁，大東出版社，1980年7月)，「李元昊と野利兄弟 ― 西夏の君主権について」(『池田末利博士古稀記念東洋学論集』，691～704頁，同記念事業会，1980年9月)。

並木頼寿

③「捻軍盟主張洛行」(呴沫集 2，83～98頁，学習院大学史学科呴沫集世話人会，1980年7月)，「捻軍の反乱と扞寨」(東洋学報 62－3・4，104～142頁，東洋文庫，1981年3月)。

原　實

③ " Textual Theme of Rāmāyaṇa in Japan, " (*The Rāmāyaṇa Tradition in Asia*, edited by V.Raghavan (New Delhi, 1980), pp.334－347.), " A Note on the Buddha's Birth Story, " (*Indianisme et Bouddhisme*, Mélanges offerts à Mgr. Etienne Lamotte (Publications de I' Institut orientaliste de Louvain 23) (Louvain 1980), pp.143－157.), ⑦ "Rāma Stories in China and Japan ― A Comparison, " (International Rāmāyaṇa Seminar held in New Delhi, 9 January 1981.), "Expansion of the Rāma Story to Far East," (Public Lecture held at the University of Delhi, 13 January 1981.)。

原田　覚

③「敦煌蔵文資料に於ける宗義系の論書(2)」(印度学仏教学研究 29－1，393～389頁，日本印度学仏教学会，1980年12月)，⑤「(回顧と展望)チベット」(史学雑誌 89－5，243～245頁，史学会，1980年5月)。

坂野正高

⑦「失意の改革思想家馬建忠(1844～1900)― その外交論と海軍論を中心として」(東方学会第25回国際東方学者会議(東京会議)特別講演，1980年5月9日)，⑧「東洋文化研究蔵書疎開の記」(東京大学附属図書館月報・図書館の窓 19－8，19－9，92～95頁，103～106頁，1980年8月，9月)，「若き児は怖を知らじ ― アーネスト・サトウの中国滞在日記を読む(1)」(荻原延寿著『遠い崖 ― アーネスト・サトウ日記抄』第1巻，付録2～4頁，朝日新聞社，1980年12月)。

古垣光一

④「真宗時代京朝官の磨勘の法について ―特に沿革を中心として―」(史朋 11, 1～21頁, 北海道大学文学部東洋史談話会, 1980年3月), ⑦「宋代の孔族について ―特に教育政策より見て―」(第96回東洋教育史学会例会, 1980年11月17日)。

本庄比佐子

⑤「日本陸軍と中国 ― 資料紹介:福島安正書簡3通」(近代中国研究彙報 3, 1～12頁, 東洋文庫, 1981年3月)。

本田實信

⑦「ラシード区について」(日本エリエント学会第22回大会, 1980年11月23日)。

松村　潤

③「天命朝の奏疏」(日本大学史学科五十周年記念歴史学論文集, 588～599頁, 日本大学史学科創立五十周年記念事業実行委員会, 1978年4月), 「明・清時代」(『講座・敦煌』第2巻≪敦煌の歴史≫, 399～431頁, 大東出版社, 1980年7月), 「アミン=ベイレの生涯」(研究紀要 25, 19～35頁, 日本大学人文科学研究所, 1981年3月), ⑦「The state of Manchu studies in Japan」(国際清史檔案研討会, 1978年7月4日), 「Some fragments of Chinese memorials from the T′ien-ming era」(同上, 1978年7月4日), 「Manchu books in the Toyo Bunko」(第五回東亜阿爾泰学会, 1980年12月31日), ⑧「矢立の起源」(月刊健康 7, 3～4頁, 1978年7月)。

柳田征司

②『高山寺経蔵典籍文書目録　第四』(高山寺典籍文書総合調査団編, 東京大学出版会, 1981年2月, 1109頁), 『論集日本語研究 13 中世語』(有精堂, 1980年12月, 332頁), ③「医家の抄物・一斑」(近代語研究 6, 137～180頁, 近代語学会, 1980年5月), 「諸論考の取上げた抄物の語詞(1977・78年)」(国語語彙史の研究 1, 239～249頁, 国語語彙史研究会, 1980年5月), 「書入れ仮名抄一斑・追補」(愛媛国文と教育 11, 26～39頁, 愛媛大学教育学部国語国文学会, 1980年7月), 「中山法華経寺本『三教指帰注』の成立 ―院政期までの注釈活動―」(築島裕・小林芳規編『中山法華経寺蔵本三教指帰注総索引及び研究』, 645～671頁, 武蔵野書院, 1980年8月), 「明恵上人の講義とその聞書」(高山寺典籍文書綜合調査団編『高山寺典籍文書の研究』, 181～197頁, 東京大学出版会, 1980年12月), 「高山寺蔵本不空羂索毗盧庶那仏大灌頂光明真言句義釈」(同前, 769～792頁, 同前), 「慶応義

塾大学附属研究所斯道文庫蔵（高山寺旧蔵中原本）論語集解巻第四零簡及巻第八奥書」（同前，839～848頁，同前），「国語資料として見た足利学校関係の仮名抄（下）」（愛媛大学教育学部紀要Ⅱ部人文社会科学13，愛媛大学教育学部，1981年2月），④「昭和53・54年における国語学界の展望　国語研究資料」（国語学121，13～24頁，国語学会，1980年6月），⑦「江戸時代初期における抄物作成活動 ―『国語学大辞典』の「抄物」の項・補訂 ―」（東洋文庫談話会，1980年12月6日），⑧「抄物」（国語学会編『国語学大辞典』，502～506頁，東京堂，1980年9月）。

山口瑞鳳

②『スタイン蒐集チベット語文献解題目録 ― 第五分冊 ―』（東洋文庫チベット研究委員会編，東洋文庫，1981年3月，130頁），「吐蕃支配時代」（『講座・敦煌』第二巻≪敦煌の歴史≫，197～232頁，大東出版社，1980年7月），「摩河衍の禅」（『講座・敦煌』第八巻≪敦煌仏典と禅≫，379～407頁，大東出版社，1980年11月），「ダルマ王の二子と吐蕃の分裂」（駒沢大学仏教学部論集11，214～233頁，駒沢大学，1980年11月），「ダルマ王殺害の前後」（成田山仏教研究所紀要5，1～27頁，成田山仏教研究所，1980年12月），「沙州漢人による吐蕃二軍団の成立と mkhar tsen 軍団の位置」（文化交流研究施設紀要4，13―47頁，東京大学，1981年3月），⑤「L・ペテック著『ラダック王国』」（東洋学報62―1・2，143～151頁，東洋文庫，1980年12月），⑦「La fondation du royaume Tibétain d'après les sources anciennes, Tibetaines et Chinoises」（コレージュ・ド・フランスにおける連続講義，1981年2月13，20，27日，3月6，13，20，27日），⑧「ラダックの仏教と歴史」（『秘境ラダック ―西チベットにラマ教を訪ねて』，113～120頁，成田山仏教研究所，1980年12月）。

山崎元一

①『インダス文明 ― インド文化の源流をなすもの ―』（辛島昇・桑山正進・小西正捷の3氏と共著，NHKブックス，日本放送出版協会，1980年10月，242頁），③「ガハパティ，セッティ，サッタヴァーハ」（山本達郎博士古稀記念『東南アジア・インドの社会と文化（下）』，山川出版社，1980年12月，385～412頁）。「ハスティナープラとアトランジケーラー ― ガンジス川上流域の二遺跡 ―」（国学院雑誌81―12，48～65頁，国学院大学，1980年12月）。⑤「奈良康明『仏教史Ⅰ（インド・東南アジア）』」（史学雑誌89―7，110～111頁，史学会，1980年7月）。「G.P.ウパーディヤーイ『古代インドのバラモン ― B.C.200年頃～A.D.500年頃のバラモン階級の役割に関する一研究 ―』」（東洋学報62―1・2，151～157頁，東洋文庫，1980年12月）。⑧「アショーカ王伝説をめぐって ―塚本啓祥氏の批判に答え

る（二）ー」（春秋 213，14～16頁，春秋社，1980年4月）。「南アジア世界」（『学研ハイベスト教科事典（世界歴史）』，140～162頁，学習研究社，1980年11月）。「多様世界の統一 ― インド 4000年の歴史 ―」（『波動する世界』：現代用語の基礎知識81年版付録，1～8頁，25頁，自由国民社，1980年12月）。

山根幸夫

②「百瀬弘著『明清社会経済史研究』」（中村哲夫共編，研文出版，1980年8月，290頁），⑤「吉林師大学報編輯部編『中国古代史論文集』」（東洋学報 62―1・2，140～143頁，東洋文庫，1980年12月），「譚汝謙主編『中国訳日本書綜合目録』」（東洋学報 62―3・4，212～215頁，1981年3月），⑥「呉金成著『明末洞庭湖周辺の水利開発と農村社会』」（中国水利史研究 10，14～35頁，中国水利史研究会，1980年10月），「呉金成著『明代紳士層の形成過程について』上」（稲田英子共訳，明代史研究 8，39～60頁，明代史研究会，1980年11月），⑦「戦後日本における明代史研究の動向」（明清社会経済史訪中団，1980年4月3日，南京大学），「戦後日本における明代史研究の動向」（明清社会経済史訪中団，1980年4月7日，上海社会科学院経済研究所），「辛亥革命と日本に関するわが国の研究」（日中交流史訪中団，1980年9月6日，中国社会科学院世界歴史研究所，於燕山賓館），「東方文化学院の成立とその後」（日中交流史研究会，1980年6月21日，早大社会科学研究所），「『明史研究専刊』拾3輯書評」（京大人文科学研究所明清研究班例会，1981年2月3日），⑧「傅衣凌教授の来日を迎えて」（燎原 10，7～9頁，燎原書店，1980年4月），「明清社会経済史訪華団について」（明代史研究 8，19～20頁，明代史研究会，1980年11月），「日中学術交流の旅」（日中学術交流 14，1～2頁，日中学術懇談会，1980年7月），「〔百瀬弘著述〕解題」（『明清社会経済史研究』261～268頁，研文出版，1980年8月），「辛酉の年を迎えて」（東京女子大学学報 34―1，2頁，東京女子大学，1981年1月），「辛亥時期の日中関係について（座談会）」（上海社会科学院歴史研究所，1980年9月10日，沈以行，陳旭麓，丁日初，陳匡時，夏笠，湯志鈞，呉乾兌，大畑篤四郎各氏参加，於錦江飯店）。

吉野　誠

⑤「梶村秀樹著『朝鮮における資本主義の形成と展開』」（社会経済史学 46―5，90～93頁，社会経済史学会，1981年2月）。

渡辺紘良

③「金国賀宋正旦使施宜生について」（獨協医科大学教養医学科紀要 3，21～40頁，獨協医科大学教養医学科，1980年12月）。

Ⅳ 業務報告

1. 庶務報告

A. 財団法人東洋文庫理事会・評議員会

理事会

第 226 回　開催日　昭和 55 年 6 月 3 日（火）
出席者　榎　一雄，有光次郎，小笠原光雄，河野六郎，高垣寅次郎
委任状　川北禎一，酒井杏之助，徳川宗敬，松本重治，山本達郎
中島正樹

第 227 回　開催日　昭和 55 年 12 月 2 日（火）
出席者　榎　一雄，小笠原光雄，河野六郎，高垣寅次郎，山本達郎
委任状　有光次郎，川北禎一，徳川宗敬，松本重治，中島正樹
酒井杏之助（逝去）

第 228 回　開催日　昭和 55 年 12 月 2 日（火）
出席者　榎　一雄，小笠原光雄，河野六郎，高垣寅次郎，山本達郎
委任状　有光次郎，川北禎一，徳川宗敬，松本重治，中島正樹

第 229 回　開催日　昭和 56 年 2 月 10 日（火）
出席者　榎　一雄，有光次郎，小笠原光雄，
委任状　川北禎一，河野六郎，高垣寅次郎，徳川宗敬，松本重治
山本達郎，中島正樹

評議員会

第 100 回　開催日　昭和 55 年 6 月 3 日（火）
出席者　坂本太郎
委任状　石川忠雄，梅原末治，沢田敏男，清水　司，中山素平
長谷川周重，俣野健輔，向坊　隆

第 101 回　開催日　昭和 55 年 12 月 2 日（火）
出席者　榎　一雄，小笠原光雄，河野六郎，坂本太郎，高垣寅次郎
山本達郎
委任状　有光次郎，石川忠雄，梅原末治，川北禎一，沢田敏男，清水　司
徳川宗敬，中島正樹，中山素平，長谷川周重，俣野健輔

松本重治，向坊　隆

第 102 回　開催日　昭和 56 年2月 10 日（火）

出席者　坂本太郎

委任状　石川忠雄，梅原末治，沢田敏男，清水　司，中山素平

長谷川周重，俣野健輔，向坊　隆

B. 東洋学連絡委員会

前期　開催日　昭和 55 年5月 27 日（火）

出席者　榎　一雄，市古宙三，岩生成一，植村清二，福井康順，宮崎市定

松本信広，山本達郎

議　題　1. 昭和 54 年度財団法人東洋文庫事業報告について

2. 昭和 55 年度財団法人東洋文庫事業計画案について

後期　開催日　昭和 55 年 11 月 18 日（火）

出席者　榎　一雄，市古宙三，植村清二，貝塚茂樹，長尾雅人，中嶋　敏

日比野丈夫，宮崎市定

議　題　1. 昭和 55 年度財団法人東洋文庫事業中間報告について

2. 昭和 56 年度財団法人東洋文庫事業計画案について

2. 人事報告

役員異動

年月日	役職名	氏名	区分	備考
55. 11. 4	理事	酒井杏之助	逝去	

委員異動

年月日	役職名	氏名	区分	備考
55. 4. 8	東洋学連絡委員会委員	吉川幸次郎	逝去	
55. 8. 10	東洋学連絡委員会委員	森鹿三	〃	
56. 3. 8	東洋学連絡委員会委員	松本信広	〃	

職員異動

年月日	役職名	氏名	区分	備考
55. 4. 1	研究員（奨励）	神矢法子	就職	
〃	〃（兼任）	森岡康	〃	
55. 6. 1	〃（〃）	本田實信	〃	京都大学教授
〃	司書（嘱託）	志茂碩敏	〃	
55. 6. 30	参事	宇田川善吉	退職	
55. 7. 1	〃	吉田男佐武	就職	
56. 3. 31	研究員（奨励）	並木頼寿	退職	
〃	〃	新村容子	〃	
〃	〃	原田覚	〃	

受賞

年月日	役職名	氏名	区分	備考
55. 5. 3	理事	河野六郎	叙勲	紫綬褒賞

表彰

年月日	役職名	氏名	区分	備考
55. 11. 19	司書	秩父良子	勤続	20年
〃	〃	渡辺兼庸	〃	〃

3. 会計報告

昭和55年度財団法人東洋文庫収支決算書

昭和56年3月31日現在

収入の部		支出の部	
科目	金額(千円)	科目	金額(千円)
一般会計		一般会計	
民間学術研究振興費国庫補助金	45,453	経常費	67,938
維持会費収入及寄付金収入	45,452	事業費	55,851
財産収入	6,945		
事業収入	25,807		
雑収入	132		
小計	123,789		123,789
特別会計		特別会計	
文部省科学研究費補助金	9,700	文部省科学研究費	9,700
民間研究助成金	5,806	民間研究助成金研究費	5,806
小計	15,506	小計	15,506
合計	139,295	合計	139,295

国庫補助金年度別受入額一覧表

年度別	一般会計	特別会計（科学研究費補助金）	合計
22	320 千円	— 千円	320 千円
23	600	—	600
24	720	—	720
25	530	—	530
26	350	1,070	1,420
27	600	150	750
28	1,000	4,500	5,500
29	1,000	1,300	2,300
30	3,850	4,310	8,160
31	6,850	1,940	8,790
32	6,850	2,650	9,500
33	6,850	500	7,350
34	6,765	5,640	12,405
35	6,562	6,010	12,572
36	6,000	3,600	9,600
37	6,000	2,010	8,010
38	6,000	2,785	8,785
39	7,828	3,350	11,178
40	8,382	8,895	17,277
41	9,166 (9,500)	9,160	18,326
42	10,901 (11,500)	7,560	18,461
43	11,500	9,900	21,400
44	13,236 (13,500)	7,300	20,536
45	14,827 (15,300)	6,900	21,727
46	16,659 (17,200)	13,900	30,559
47	18,377 (19,000)	11,000	29,377
48	24,173 (25,000)	3,300	27,473
49	28,383 (29,000)	9,420	37,803
50	30,849 (33,000)	14,040	44,889
51	33,750 (34,500)	0	33,750
52	35,883 (36,632)	10,000	45,883
53	40,509 (41,036)	11,000	51,509
54	44,951 (45,536)	5,500	50,451
55	45.453 (46.447)	9,700	55,153

（　）内は当初予算額

文部省科学研究費補助金年度別受入一覧表

年度	区分	研究課題	研究代表者	補助金額(千円)	
26	研究成果刊行費	プラーフマナとシュラウタスートラとの関係	辻 直四郎	400	1,070
	〃	日清戦役外交史の研究	岩井大慧	200	
	〃	支那経済史考証	和田 清	390	
	各個研究	古代中国の民族構成の研究	〃	80	
27	研究成果甘行費	明代建州女直史研究	園田一亀	150	
28	機関研究	スタイン博士蒐集敦煌文書のマイクロフィルム撮影並びにその整理研究	岩井大慧	4,500	
29	〃	〃	〃	1,300	
30	〃	〃	〃	4,000	4,310
	研究成果刊行費	満文老檔 I	神田信夫	310	
31	機関研究	スタイン博士蒐集敦煌文書のマイクロフィルム撮影並びにその整理研究	岩井大慧	1,700	1,940
	研究成果刊行費	満文老檔 II	神田信夫	240	
32	機関研究	スタイン博士蒐集敦煌文書のマイクロフィルム撮影並びにその整理研究	岩井大慧	1,700	2,650
	総合研究	スタイン将来敦煌文献の調査研究	鈴木 俊	580	
	研究成果刊行費	満文老檔 III	神田信夫	370	
33	総合研究	スタイン将来敦煌文献の調査研究	鈴木 俊	500	
34	機関研究	中世以降における東アジア諸地域の貴重文献の整理研究	岩井大慧	4,000	5,640
	総合研究	スタイン将来敦煌文献の調査研究	鈴木 俊	800	
	〃	日唐法制経済文書の比較研究—正倉院文書と敦煌文書—	仁井田 陞	500	
	研究成果刊行費	満文老檔 IV	神田信夫	340	

年度	区分	研究課題	研究代表者	補助金額(千円)	
35	機関研究	中世以降における東アジア諸地域の貴重文献の整理研究	岩井大慧	4,800	6,010
	総合研究	西域出土古文書・古文献の調査研究	鈴木俊	900	
	研究成果刊行費	満文老檔 V	神田信夫	310	
36	機関研究 B	イスラーム諸国の社会構造の研究	榎一雄	1,500	3,600
	〃 C	中世以降における東アジア諸地域の貴重文献の整理研究	岩井大慧	600	
	総合研究	西域出土古文書・古文献の調査研究	鈴木俊	1,200	
	研究成果刊行費	満文老檔 Ⅵ	神田信夫	300	
37	機関研究 B	イスラーム諸国の社会構造	榎一雄	1,700	2,010
	研究成果刊行費	満文老檔 Ⅶ	神田信夫	310	
38	特定研究	イスラーム諸国の社会構造	榎一雄	1,700	2,785
	研究成果刊行費	日本文・中国文・朝鮮文等逐次刊行物目録	岩井大慧	1,045	
	各個研究	李朝仁祖朝に於ける贖還問題と対清貿易	森岡康	40	
39	特定研究(2)	イスラーム諸国の社会構造	榎一雄	1,700	3,350
	総合研究	宋代以降の中国農村社会経済関係語彙に関する研究	青山定雄	750	
	研究成果刊行費	中国地方志連合目録	岩井大慧	850	
	各個研究	北日本における晩期縄文文化の研究	渡辺兼庸	50	
40	機関研究 A	地方志にもとづく中国社会の研究	田川孝三	5,400	8,895
	特定研究(2)	イスラーム諸国の社会構造	榎一雄	1,440	
	総合研究	宋代以降の中国農村社会経済関係語彙に関する研究	青山定雄	675	
	研究成果刊行費	梅原考古資料目録(朝鮮之部)	榎一雄	550	
	〃	漢籍叢書所在目録	森鹿三	830	

年度	区分	研究課題	研究代表者	補助金額（千円）	
41	機関研究 A	地方志にもとづく中国社会の研究	田川孝三	4,140	9,160
	特定研究 (2)	日本の近代化過程に対する国際的評価とその背景	榎一雄	2,700	
	総合研究	金石文を主とした朝鮮史の基礎的研究	末松保和	1,200	
	〃	パーリ語辞典編集のための基礎的研究	辻直四郎	300	
	研究成果刊行費	漢籍分類目録集部（東洋文庫の部）	〃	820	
42	機関研究 A	地方志にもとづく中国社会の研究	田川孝三	3,360	7,560
	特定研究 (2)	日本の近代化過程に対する国際的評価とその背景	榎一雄	2,700	
	総合研究	金石文を主とした朝鮮史の基礎的研究	末松保和	1,200	
	〃	パーリ語辞典編纂のための基礎的研究	辻直四郎	300	
43	一般研究 A	唐末以降1940年代にいたる中国の地主制の体系的研究	青山定雄	7,080	9,900
	特定研究 (2)	日本の近代化過程に対する国際的評価とその背景	榎一雄	2,820	
44	一般研究 A	唐末以降1940年代にいたる中国の地主制の体系的研究	青山定雄	2,000	7,300
	特定研究 (2)	日本の近代化過程に対する国際的評価とその背景	榎一雄	2,820	
	総合研究 A	中国周辺諸言語に関する中国資料の調査研究	辻直四郎	2,000	
	研究成果刊行費	唐代の服飾	原田淑人	480	
45	一般研究 A	唐末以降1940年代にいたる中国の地主制の体系的研究	青山定雄	800	6,900
	総合研究 A	中国周辺諸言語に関する中国資料の調査研究	辻直四郎	1,600	
	海外学術調査	インド・シッキム・ブータン・ネパールにおけるチベット文献の調査と収集	榎一雄	4,500	

年度	区　分	研　究　課　題	研究代表者	補助金額(千円)	
46	一般研究 A	日本を中心とする近代東アジア国際関係の史的研究	市古宙三	11,500	13,900
	総合研究 A	中国周辺諸言語に関する中国資料の調査研究	辻　直四郎	1,400	
	〃	李朝後半期の農村社会文化	田川孝三	1,000	
47	一般研究 A	日本を中心とする近代東アジア国際関係	市古宙三	5,000	11,000
	総合研究 A	李朝後半期の農村社会文化	田川孝三	1,600	
	海外学術調査	インド・シッキム・プータン・ネパールにおけるチベット文献の調査と収集	榎　一雄	4,400	
48	特定研究 (2)	両大戦間の中国をめぐる国際情勢	市古宙三	2,500	3,300
	海外学術調査	東洋文庫インド・シッキム・ネパール調査隊収集チベット文献の整理と目録作成	北村　甫	800	
49	一般研究 A	南アジアにおける文化変容の研究および資料の収集	榎　一雄	6,690	9,420
	〃 D	明代の地方行政区割，府・州・県の地理的沿革に関する研究	鶴見尚弘	230	
	特定研究 (2)	両大戦間の中国をめぐる国際情勢	市古宙三	2,500	
50	一般研究 A	イスラム社会の構造に関する歴史学的研究	辻　直四郎	11,500	14,040
	〃 D	敦煌出土寺院関係古文書の基礎的研究	土肥義和	290	
	特定研究 (2)	両大戦間の中国をめぐる国際情勢	榎　一雄	2,250	
52	一般研究 A	中国を中心とする東アジア国際関係中資料の書誌的研究	榎　一雄	10,000	

年度	区　　分	研　究　課　題	研究代表者	補助金額（千円）	
53	一般研究 A	中国を中心とする東アジア国際関係史資料の書誌的研究	榎　一雄	3,000	11,000
	総合研究 A	仏典翻訳の対照意味論的研究	辻　直四郎	3,600	
	〃	李朝に於ける地方自治組織並びに農村社会経済語彙の研究	田川孝三	4,400	
54	一般研究 A	中国を中心とする東アジア国際関係史資料の書誌的研究	榎　一雄	2,000	5,500
	総合研究 A	仏典翻訳の対照意味論的研究	辻　直四郎（原田　覚）	3,000	
	〃	李朝に於ける地方自治組織並びに農村社会経済語彙の研究	田川孝三	500	
55	一般研究 A	南アジア史研究資料の基礎的研究	榎　一雄	9,400	9,700
	総合研究 A	仏典翻訳の対照意味論的研究	辻　直四郎（原田　覚）	300	

文部省補助金研究者養成費年度別支給一覧表

年度	研究者氏名	研究課題	現職	補助金年金(千円)	備考
31	永積　昭	近世東南アジア貿易史の研究—オランダ東印度会社の活動を中心として—	東京大学教授	480	
	高島　稔	インド土地制度史の研究—イギリスの統治下における—	北海道大学教授		
	斯波　義信	中国社会経済史の研究—特に宋代の商業史的研究を中心として—	大阪大学教授		
	本田　實信	蒙古民族史の研究	京都大学教授		
	山根　幸夫	15世紀以降の中国における郷村統治の研究	東京女子大学教授		
	松村　潤	清朝初期史—明・清・蒙古・満州・朝鮮の文献史料の比較検討—	日本大学教授		
	山口　瑞鳳	梵蔵文文法論	東京大学教授		
32	永積　昭	(前掲出)	(前掲出)	480	
	高島　稔	(〃)	(〃)		
	斯波　義信	(〃)	(〃)		
	池田　温	唐代社会経済史研究	東京大学教授		
	山根　幸夫	(前掲出)	(前掲出)		
	松村　潤	(〃)	(〃)		
	山口　瑞鳳	(〃)	(〃)		
33	永積　昭	(前掲出)	(前掲出)	480	
	高島　稔	(〃)	(〃)		
34	永積　昭	(前掲出)	(前掲出)	480	
	高島　稔	(〃)	(〃)		
35	生田　滋	近世インドネシア史研究	財団法人東洋文庫附置ユネスコ東アジア文化研究センター研究員	480	
	佐々木正哉	近世中国排外運動の研究	明治大学教授		

年度	研究者氏名	研究課題	現職	補助金年額(千円)	備考
36	佐々木正哉 金子　良太	(前掲出) サキヤ派史の研究	(前掲出) (逝去昭54.3.15)	480	
37	金子　良太 酒井　良樹	(前掲出) ベトナムの国際的位置	(前掲出)	480	
38	金子　良太 武田　幸男	(前掲出) 朝鮮中世史研究	(前掲出) 東京大学助教授	480	
39	川崎　信定 山口　瑞鳳 山崎　元一	チベットにおける仏教思想の展開—唯識思想を中心とした跡づけ— チベット歴史辞典の編集及びチベット暦—第6代ダライラマ伝説の研究— インド古代史の研究	筑波大学助教授 (前掲出) 国学院大学教授	480	4.1-10.31 11.1-3.31
40	山口　瑞鳳 山崎　元一	(前掲出) (　〃　)	(前掲出) (　〃　)	480	
41	山口　瑞鳳 山崎　元一	(前掲出) (　〃　)	(前掲出) (　〃　)	480	
42	後藤　明 西　義郎	マホメット時代のアラブ社会の考察 ビルマ語の研究	山形大学助教授 鹿児島大学助教授	600	
43	後藤　明 西　義郎	(前掲出) (　〃　)	(前掲出) (　〃　)	600	
44	後藤　明 金子　良太	(前掲出) 西域出土チベット文献の研究	(前掲出) (　〃　)	600	
45	長　正統 川崎　信定 永田　雄三	李朝後期の日鮮貿易史 チベット仏教古派資料の研究 トルコの近代化に関する社会経済史的研究	九州大学助教授 (前掲出) 東京外国語大学助教授	1,080	

年度	研究者氏名	研究課題	現職	補助金年額（千円）	備考
46	長　正統	（前掲出）	（前掲出）	1,080	
	川崎　信定	（〃）	（〃）		
	渡辺　紘良	宋代地主制の研究	独協医科大学助教授		
47	長　正統	（前掲出）	（前掲出）	1,218	
	川崎　信定	（〃）	（〃）		
	二瓶　幸子	アティーシャ著「菩提前燈論」の研究	日本学士院事務官		4.1-6.30
	土肥　祐子	宋代における市舶制度の展開			10.1-3.31
48	菅野　裕臣	朝鮮語の歴史的研究	東京外国語大学助教授	1,620	
	松本　明	唐代選挙制度の研究	財団法人東洋文庫専任研究員		
	花田　宇秋	イスラーム第二次内乱の研究	中央大学講師		
49	菅野　裕臣	（前掲出）	（前掲出）	1,620	
	松本　明	（〃）	（〃）		
	花田　宇秋	（〃）	（〃）		
50	松本　明	（前掲出）	（前掲出）	2,700	
	花田　宇秋	（〃）	（〃）		
	長野　泰彦	ボン教の伝承に関する文献学的研究	国立民族学博物館助手		
51	長野　泰彦	（前掲出）	（前掲出）	3,024	
	古垣　光一	宋代官僚制の研究	財団法人東洋文庫司書		
	志茂　碩敏	Gha Zan Khanの諸改革			
52	長野　泰彦	（前掲出）	（前掲出）	3,240	4.1-9.15
	原田　覚	吐蕃仏教の研究			9.16-3.31
	古垣　光一	（前掲出）			
	佐藤　智水	南北朝・隋・唐初における邑義について	岡山大学専任講師		4.1-11.30
	浜下　武志	中国近代経済史研究—金融問題を中心として—	一橋大学専任講師		12.1-3.31

年度	研究者氏名	研　究　課　題	現　　職	補助金年額（千円）	備　考
53	原田　覚	（前　掲　出）		3,492	
	浜下　武志	（　〃　）	（前　掲　出）		
	蔀　勇造	古代南アラビア史のクロノロジーの研究	東京大学助手		
54	原田　覚	（前　掲　出）		3,636	
	並木　頼寿	捻軍史を中心とする清末華北農村社会の研究			
	新村　容子	清末地主制の研究			
55	原田　覚	（前　掲　出）	東方学院講師	3,708	
	並木　頼寿	（　〃　）	東洋大学講師		
	新村　容子	（　〃　）			

V 役職員名簿

昭和56年3月31日現在の財団法人東洋文庫の役職員は，以下のとおりである。

1. 役　員

役職名	氏　名	現　職
理事長代理 専務理事	榎　一雄	国立国会図書館支部東洋文庫長　財団法人東洋文庫研究部長　財団法人東洋文庫図書部長　東京大学名誉教授
理　事	有光次郎	日本芸術院院長　東京家政大学学長
〃	小笠原光雄	株式会社三菱銀行相談役
〃	川北禎一	株式会社日本興業銀行相談役
〃	河野六郎	大東文化大学教授　財団法人東洋文庫附置ユネスコ東アジア文化研究センター所長
〃	高垣寅次郎	日本学士院会員　一橋大学名誉教授　成城学園名誉園長
〃	徳川宗敬	神社本庁統理　社団法人日本博物館協会会長
〃	松本重治	財団法人国際文化会館理事長
〃	山本達郎	日本学士院会員　国際基督教大学教授　東京大学名誉教授
監　査	中島正樹	株式会社三菱総合研究所会長　社団法人経済団体連合会評議員　経済同友会幹事
評議員	石川忠雄	慶応義塾塾長　慶応義塾大学学長
〃	梅原末治	京都大学名誉教授
〃	坂本太郎	日本学士院会員　国学院大学教授　東京大学名誉教授
〃	沢田敏男	京都大学学長
〃	清水　司	早稲田大学総長
〃	中山素平	株式会社日本興業銀行相談役
〃	長谷川周重	住友化学工業株式会社会長
〃	俣野健輔	飯野海運株式会社会長
〃	向坊　隆	東京大学総長

2. 東洋学連絡委員会委員

役職名	氏　名	現　職
委員長	榎　一雄	（前掲出）
常任委員	山本達郎	（前掲出）
委員	市古宙三	中央大学教授，　お茶の水女子大学名誉教授
〃	岩生成一	日本学士院会員
〃	植村清二	国士館大学客員教授
〃	江上波夫	古代オリエント博物館館長，東京大学名誉教授
〃	貝塚茂樹	京都大学名誉教授
〃	長尾雅人	鉄鋼短期大学教授，京都大学名誉教授
〃	中嶋　敏	大東文化大学教授，東京教育大学名誉教授
〃	日比野丈夫	大手前女子大学教授，京都大学名誉教授
〃	福井康順	早稲田大学名誉教授
〃	宮崎市定	京都大学名誉教授

3. 名誉研究員

氏　名	現　職
W. T. デ・バリイ	コロンビア大学教授
E. O. ライシャワー	ハーヴァード大学教授，元駐日アメリカ大使
W. サイモン	イギリス学士院会員，ロンドン大学名誉教授
G. トゥッチ	ローマ大学教授，イタリア中東亜研究所所長
A. フオン・ガベイン	前ハンブルグ大学教授
A. B. ディヴィス	シドニー大学教授
J. ヂェルネ	第7パリ大学教授，フランス国立高等研究院研究指導員
H. フランケ	ミュンヘン大学教授
L. ペテック	ローマ大学教授

4. 職　員

部名	職名	氏名	現職
研究部	部長	榎一雄	（前掲出）
	部長代理	護雅夫	東京大学教授
	部長補佐	田中正俊	東京大学教授
	研究顧問	岩村忍	京都大学名誉教授
	〃	村田治郎	京都大学名誉教授
	研究員(兼任)	青山定雄	聖心女子大学講師
	〃	荒松雄	東京大学東洋文化研究所教授
	〃	池田温	東京大学東洋文化研究所教授
	〃	市古宙三	（前掲出）
	〃	岩生成一	（前掲出）
	〃	宇都木章	青山学院大学教授
	〃	梅原末治	（前掲出）
	〃	海野一隆	大阪大学教授
	〃	越智重明	九州大学教授
	〃	岡田英弘	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所教授
	〃	亀井孝	成城大学教授
	〃	川崎信定	筑波大学助教授
	〃	神田信夫	明治大学教授
	〃	菊池英夫	北海道大学教授
	〃	北村甫	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所教授
	〃	草野靖	熊本大学教授
	〃	河野六郎	（前掲出）
	〃	後藤明	山形大学助教授
	〃	後藤均平	立教大学教授
	〃	佐伯富	京都大学名誉教授
	〃	佐藤次高	東京大学助教授
	〃	酒井憲二	図書館情報大学教授
	〃	斯波義信	大阪大学教授
	〃	滋賀秀三	東京大学教授

部名	職名	氏名	現職
	研究員(兼任)	清水宏祐	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究助手
	〃	周藤吉之	東洋大学講師
	〃	末松保和	学習院大学名誉教授
	〃	関野雄	お茶の水女子大学教授
	〃	田川孝三	日本大学講師
	〃	田中時彦	東海大学教授
	〃	田中正俊	(前掲出)
	〃	竺沙雅章	京都大学教授
	〃	鶴見尚弘	横浜国立大学教授
	〃	土肥義和	国学院大学助教授
	〃	鳥海靖	東京大学助教授
	〃	中嶋敏	(前掲出)
	〃	永田雄三	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所助教授
	〃	原實	東京大学教授
	〃	坂野正高	国際基督教大学教授
	〃	藤枝晃	京都大学名誉教授
	〃	本田實信	京都大学教授
	〃	松濤誠達	大正大学講師
	〃	松村潤	日本大学教授
	〃	三根谷徹	東京大学教授
	〃	護雅夫	(前掲出)
	〃	森岡康	
	〃	山口瑞鳳	東京大学教授
	〃	山崎元一	国学院大学教授
	〃	山根幸夫	東京女子大学教授
	〃	山本達郎	(前掲出)
	〃	渡辺紘良	独協医科大学助教授
	研究員	河鰭源治	
	研究員(専任)	松本明	
	研究助手	大島立子	

部名	職名	氏名
図書部	部長	榎　一雄*
	主査	渡辺兼庸*
	副主査	大塚祐子*，小山　勲*，竹之内信子*
	〃	児野寿満子，広瀬洋子*
	係員	浅野千秋，池田直人，小林輝男*
	〃	志茂碩敏，西薗一男
総務部	部長	早船艶雄
	課長	平野　豊
	係員	稲村　優，染谷コウ*，藤崎美智子
	〃	光田憲雄，谷治嘉紀，吉田男佐武

＊印は国立国会図書館支部東洋文庫職員

5. 臨時職員

部名	氏名
研究部	浅井信良，飯田隆子，石川　寛，伊藤千賀子，上杉隆英，大井　剛 岡田行弘，岡田真美子，金沢　篤，久保恵子，熊谷哲也，幸島良保 小牧昌平，権太澄子，笹川陽子，島倉　透，清水海隆，志茂碩敏 高橋　明，谷水　潤，津崎浩一，中村　哲，西沢奈津子，花田宇秋 引田弘道，古垣光一，松本　隆，矢板秀臣，谷沢淳三，山名弘史 吉岡ひとみ，米沢資典，渡辺章悟
図書部	礒崎和子，伊藤公夫，堂前敏昭，森川孝典，渡辺　修

（昭和55年4月1日～昭和56年3月31日間に在籍した者）

財団法人東洋文庫研究員名簿

（昭和56年3月31日現在）

研究員名	主たる研究課題
青山定雄	宋代官僚の研究
荒松雄	南アジア史における民族・宗教と国家
池田温	中国古代史，古代東アジア文化交流史
市古宙三	太平天国及び中国共産党の研究
岩生成一	17世紀インドネシア移住日本人の活動
宇都木章	春秋時代政治史
梅原末治	（殷周青銅器時代論）
海野一隆	東洋地理・地図学の研究
榎一雄	職貢図の研究
越智重明	漢魏晋南北朝史
大島立子	元朝における社会経済史
岡田英弘	満文老檔訳註
亀井孝	日本語の歴史的研究
川崎信定	チベット仏教の展開
河鰭源治	太平天国史の研究
神田信夫	清朝興起史
菊池英夫	唐宋時代の行政および法制（特に軍制）
北村甫	現代チベット語諸方言の記述的研究
草野靖	中国近世の租佃制度
河野六郎	中期朝鮮語の研究
後藤明	イスラム社会と政治
後藤均平	ベトナム・中国関係史及び中国古代史の研究
佐伯富	中国塩政史研究
佐藤次高	イスラム中世社会経済史の研究
酒井憲二	日本語の史的研究
斯波義信	中国社会経済史
滋賀秀三	中国法制史 ― 法と訴訟 ― の研究
清水宏祐	セルジューク朝時代のイラン
周藤吉之	宋・高麗との関係史再究
末松保和	好太王とその時代
関野雄	中国考古学の研究

研究員名	主たる研究課題
田川孝三	李氏朝鮮社会経済史研究
田中時彦	（近代日本政治史）
田中正俊	中国近代社会経済史
竺沙雅章	中国宗教社会史
鶴見尚弘	明・清時代社会経済史の研究
土肥義和	西域出土漢文文書の研究
鳥海靖	近代日本政治外交史
中嶋敏	宋代史
永田雄三	18・19世紀トルコの豪農地主の研究
原實	インド古代文学の研究
坂野正高	近代中国政治外交史
藤枝晃	（文字の文化史）
本田實信	フラグ・ウルス国制史
松濤誠達	インド古代神話学
松村潤	満文老檔訳註
松本明	中国隋唐政治制度史
三根谷徹	漢字音の研究
護雅夫	トルコ民族史
森岡康	李朝中期の政治及び社会史の研究
山口瑞鳳	チベット史，チベット語文法，チベット仏教史
山崎元一	インド古代史
山根幸夫	明清社会経済史，近代日中関係史
山本達郎	ベトナム・中国関係史の研究，敦煌発見の籍帳類の研究
渡辺紘良	宋代社会史の研究

財団法人東洋文庫役員略年表

年別	理事長	常務理事	理事	評議員	監事
大正13年 (1924年)	井上準之助 (大正13年11月就任)	白鳥庫吉 (大正13年11月就任)	上田満年 (大正13年11月就任) 木内重郎 (大正13年11月就任) (大正14年 1月逝去) 桐島像一 (大正13年11月就任)	荒木寅三郎 (大正13年11月就任) 鎌田栄吉 (大正13年11月就任) 古在由直 (大正13年11月就任) 高田早苗 (大正13年11月就任) 穂積陳重 (大正13年11月就任) (大正15年 4月逝去)	小田切萬壽之助 (大正13年11月就任)
昭和 3年 (1928年)	井上準之助	白鳥庫吉	上田満年 桐島像一	荒木寅三郎 鎌田栄吉 古在由直 高田早苗 新渡戸稲造 (昭和 3年 3月就任)	小田切萬壽之助
昭和 7年 (1932年)	井上準之助 (昭和 7年 2月逝去) 桐島像一 (昭和 7年 2月就任) (昭和 7年 5月退任) 林権助 (昭和 7年 6月就任)	白鳥庫吉	上田満年 小倉正恒 (昭和10年 1月就任) 桐島像一 清水澄 (昭和 7年11月就任)	荒木寅三郎 高田早苗 池田成彬 (昭和 9年 1月就任) 一木喜徳郎 (昭和 9年 1月就任) 小倉正恒 (昭和 9年 1月就任) (昭和10年 1月転任) 鎌田栄吉 (昭和 9年 2月逝去) 小泉信三 (昭和 9年11月就任) 古在由直 (昭和 9年 6月逝去) 幣原喜重郎 (昭和10年11月就任) 長與又郎 (昭和10年 1月就任) 新渡戸稲造 (昭和 8年10月逝去)	小田切萬壽之助 (昭和 9年 9月逝去) 桐島像一 (昭和 9年11月就任)
昭和11年 (1936年)	清水澄 (昭和14年11月就任) 白鳥庫吉 (昭和11年 7月就任) (昭和11年11月退任) 林権助 (昭和14年 6月逝去)	白鳥庫吉	荒木寅三郎 (昭和12年12月就任) 上田満年 (昭和11年10月逝去) 小倉正恒 幣原喜重郎 (昭和14年12月就任)	荒木寅三郎 (昭和12年12月転任) 池田成彬 一木喜徳郎 小泉信三 幣原喜重郎 (昭和14年12月転任) 長與又郎 高田早苗 (昭和13年12月逝去) 羽田亨 (昭和14年11月就任) 細川護立 (昭和12年12月就任)	桐島像一 (昭和12年12月逝去) 坂本正治 (昭和12年12月就任)
昭和15年 (1940年)	清水澄	白鳥庫吉 (昭和17年 3月逝去)	荒木寅三郎 (昭和17年 1月逝去) 小倉正恒 幣原喜重郎	池田成彬 内田祥三 (昭和18年 2月就任) 一木喜徳郎 小泉信三 田中穂積 (昭和17年 2月就任)	坂本正治

年別	理事長	常務理事	理事	評議員	監事
昭和15年 (1940年)				長與又郎 (昭和16年 8月逝去) 羽田亨 平賀讓 (昭和17年 2月就任) (昭和18年 2月逝去) 細川護立	
昭和19年 (1944年)	幣原喜重郎 (昭和22年10月就任) 清水澄 (昭和22年 9月逝去)		小倉正恒 幣原喜重郎 坂本正治 (昭和22年10月就任) 細川護立 (昭和19年 4月就任) 和田清	池田成彬 磯野長蔵 (昭和22年 4月就任) 一万田尚登 (昭和22年 9月就任) 内田祥三 一木喜徳郎 (昭和19年12月逝去) 小泉信三 潮田江次 (昭和22年 9月就任) 島田孝一 (昭和22年 9月就任) 新村出 (昭和19年 4月就任) 田中穂積 (昭和19年 8月逝去) 鳥飼利三郎 (昭和22年 9月就任) 南原繁 (昭和22年 9月就任) 羽田亨 深井三男 (昭和22年10月就任) 細川護立 (昭和19年 4月転任) 俣野健輔 (昭和22年 9月就任)	坂本正治
昭和23年 (1948年)	幣原喜重郎 (昭和26年 3月逝去) 細川護立 (昭和26年 3月就任)	坂本正治 (昭和24年 4月就任)	有光次郎 (昭和25年 3月就任) 小倉正恒 (昭和25年 3月退任) 徳川宗敬 (昭和26年 6月就任) 細川護立 (昭和26年 3月転任) 和田清	池田成彬 (昭和25年10月逝去) 一万田尚登 内田祥三 小倉正恒 (昭和25年 3月就任) 小泉信三 潮田江次 島田孝一 新村出 高橋龍太郎 (昭和26年 6月就任) 鳥飼利三郎 南原繁 羽田亨 深井三男 (昭和24年 4月転任) 俣野健輔	坂本正治 (昭和24年 4月転任) 深井三男 (昭和24年 4月就任)
昭和27年 (1952年)	細川護立	坂本正治 (昭和27年 2月逝去)	有光次郎 小倉正恒 (昭和27年11月就任) 渋沢敬三 (昭和29年 2月就任) 徳川宗敬 羽田亨 (昭和29年 2月就任) (昭和30年 4月逝去) 山本達郎 (昭和30年 6月就任) 和田清	石黒俊夫 (昭和27年11月就任) 磯野長蔵 一万田尚登 内田祥三 (昭和27年11月退任) 梅原末治 (昭和30年 6月就任) 小倉正恒 (昭和27年11月転任) 小泉信三 潮田江次 島田孝一 新村出	深井三男 (昭和27年11月退任) 岡東浩 (昭和27年11月就任)

年別	理事長	専務理事 (昭和24年4月移行)	理事	評議員	監事
昭和27年 (1952年)				高橋龍太郎 鳥飼利三郎 南原繁 羽田亨 (昭和28年11月転任) 俣野健輔 矢内原忠雄 (昭和27年11月就任)	
昭和31年 (1956年)	細川護立	和田清 (昭和32年 6月就任)	有光次郎 小倉正恒 渋沢敬三 徳川宗敬 山本達郎	石黒俊夫 磯野長蔵 一万田尚登 (昭和32年12月退任) 梅原末治 大浜信泉 (昭和32年12月就任) 奥井俊太郎 (昭和32年12月就任) 茅誠司 (昭和32年12月就任) 小泉信三 潮田江次 (昭和32年12月退任) 島田孝一 (昭和32年12月退任) 新村出 高橋龍太郎 鳥飼利三郎 南原繁 平沢興 (昭和32年12月就任) 俣野健輔 矢内原忠雄 (昭和32年12月退任)	岡東浩
昭和35年 (1960年)	細川護立	榎一雄 (昭和35年12月就任) 和田清 (昭和35年12月退任)	有光次郎 石黒俊夫 (昭和37年12月就任) 岩井大慧 (昭和35年12月就任) 小倉正恒 (昭和36年11月逝去) 渋沢敬三 (昭和38年10月逝去) 徳川宗敬 松本重治 (昭和36年12月就任) 和田清 (昭和38年 6月逝去)	石黒俊夫 (昭和37年12月転任) 磯野長蔵 一万田尚登 梅原末治 大河内一男 (昭和38年12月就任) 大浜信泉 大原総一郎 (昭和38年12月就任) 奥井俊太郎 (昭和35年 6月退任) 奥田東 (昭和38年12月就任) 茅誠司 (昭和38年12月退任) 川北禎一 (昭和38年12月就任) 小泉信三 新村出 酒井杏之助 (昭和38年12月就任) 高橋龍太郎 高村象平 (昭和35年 6月就任) 辻直四郎 (昭和38年12月就任) 鳥飼利三郎	岡東浩

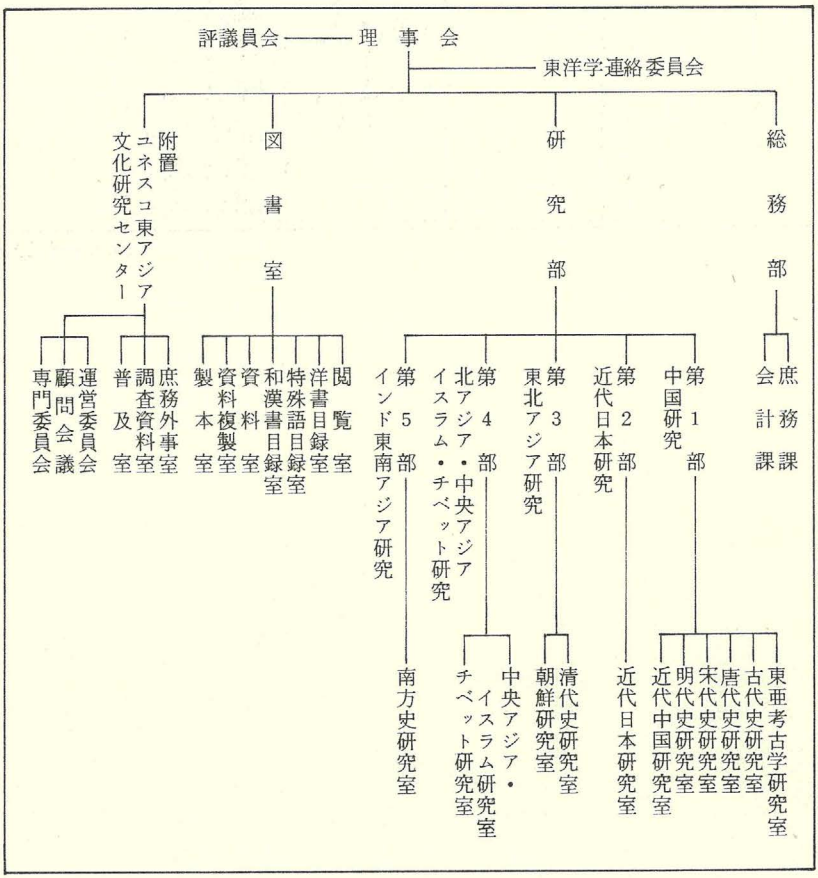
年別	理事長	専務理事	理事	評議員	監事
昭和35年 (1960年)				南原　繁 平沢　興 (昭和38年12月退任) 俣野健輔 松方三郎 (昭和38年12月就任)	
昭和39年 (1964年)	細川護立	榎　一雄	有光次郎 石黒俊夫 (昭和39年 6月逝去) 岩井大慧 大原総一郎 (昭和39年 9月就任) 小笠原光雄 (昭和39年 9月就任) 川北禎一 (昭和39年 9月就任) 河野六郎 (昭和41年11月就任) 酒井杏之助 (昭和39年 9月就任) 高垣寅次郎 (昭和41年11月就任) 辻　直四郎 (昭和39年 9月就任) 徳川宗敬 松方三郎 (昭和39年 9月就任) 松本重治 山本達郎 (昭和39年 9月就任)	阿部賢一 (昭和41年 9月就任) 磯野長蔵 (昭和42年 6月逝去) 梅原末治 奥田　東 大河内一男 大浜信泉 (昭和41年 5月退任) 大原総一郎 (昭和39年 9月転任) 川北禎一 (昭和39年 9月転任) 小泉信三 (昭和41年 5月逝去) 新村　出 (昭和42年 8月逝去) 酒井杏之助 (昭和39年 9月転任) 高橋龍太郎 (昭和42年12月逝去) 高村象平 (昭和40年 4月退任) 辻　直四郎 (昭和39年 9月転任) 鳥飼利三郎 (昭和39年 9月退任) 永沢邦男 (昭和40年 4月就任) 南原　繁 (昭和39年 9月退任) 俣野健輔 松方三郎 (昭和39年 9月転任)	岡東　浩
昭和43年 (1968年)	細川護立 (昭和45年11月逝去)	榎　一雄	有光次郎 岩井大慧 (昭和46年11月逝去) 小笠原光雄 大原総一郎 (昭和43年 7月逝去) 川北禎一 河野六郎 酒井杏之助 高垣寅次郎 辻　直四郎 徳川宗敬 松方三郎 松本重治 山本達郎	阿部賢一 (昭和43年 6月就任) 梅原末治 奥田　東 (昭和45年 5月退任) 大河内一男 (昭和44年 5月退任) 加藤一郎 (昭和44年 5月就任) 佐藤　朔 (昭和44年 7月就任) 時子山常三郎 (昭和43年 6月就任) (昭和45年11月退任) 中山素平 (昭和44年 5月就任) 永沢邦男 (昭和44年 7月退任) 長谷川周重 (昭和44年 5月就任) 前田敏男 (昭和45年 5月就任)	岡東　浩

年別	理事長	専務理事	理事	評議員	監事
昭和43年 (1968年)				俣野健輔 村井資長 (昭和45年11月就任)	
昭和47年 (1972年)	辻　直四郎 (昭和49年 4月就任)	榎　一雄	有光次郎 小笠原光雄 川北禎一 河野六郎 酒井杏之助 高垣寅次郎 辻　直四郎 徳川宗敬 松方三郎 (昭和48年 9月逝去) 松本重治 山本達郎	梅原末治 岡本道雄 (昭和48年12月就任) 加藤一郎 (昭和48年 5月退任) 久野洋 (昭和48年 6月就任) 坂本太郎 (昭和50年 5月就任) 佐藤朔 (昭和48年 6月退任) 久松潜一 (昭和50年 5月就任) 中山素平 長谷川周重 林　健太郎 (昭和48年 5月就任) 前田敏男 (昭和48年12月退任) 俣野健輔 村井資長	岡東　浩
昭和51年 (1976年)	辻　直四郎 (昭和54年 9月逝去)	榎　一雄	有光次郎 小笠原光雄 川北禎一 河野六郎 酒井杏之助 高垣寅次郎 徳川宗敬 松本重治 山本達郎	石川忠雄 (昭和52年 5月就任) 梅原末治 岡本道雄 (昭和54年12月退任) 久野洋 (昭和52年 5月退任) 坂本太郎 沢田敏男 (昭和54年12月就任) 久松潜一 (昭和51年 3月逝去) 清水司 (昭和53年11月就任) 中山素平 長谷川周重 林　健太郎 (昭和52年 6月退任) 俣野健輔 向坊隆 (昭和52年 6月就任) 村井資長 (昭和53年11月退任)	岡東　浩 (昭和52年 6月退任) 中島正樹 (昭和52年 6月就任)
昭和55年 (1980年)		榎　一雄	有光次郎 市古宙三 (昭和56年 6月就任) 大槻文平 (昭和56年 6月就任) 小笠原光雄 川北禎一 (昭和56年 6月逝去) 河野六郎 酒井杏之助 (昭和55年11月逝去) 高垣寅次郎	阿部隆一 (昭和56年 6月就任) 石川忠雄 梅原末治 亀井孝 (昭和56年 6月就任) 神田信夫 (昭和56年 6月就任) 坂本太郎 沢田敏男 清水司 田部文一郎 (昭和56年 6月就任)	高雄　靖 (昭和56年 6月就任) 中島正樹 (昭和56年 6月退任) 播磨俊雄 (昭和56年 6月就任)

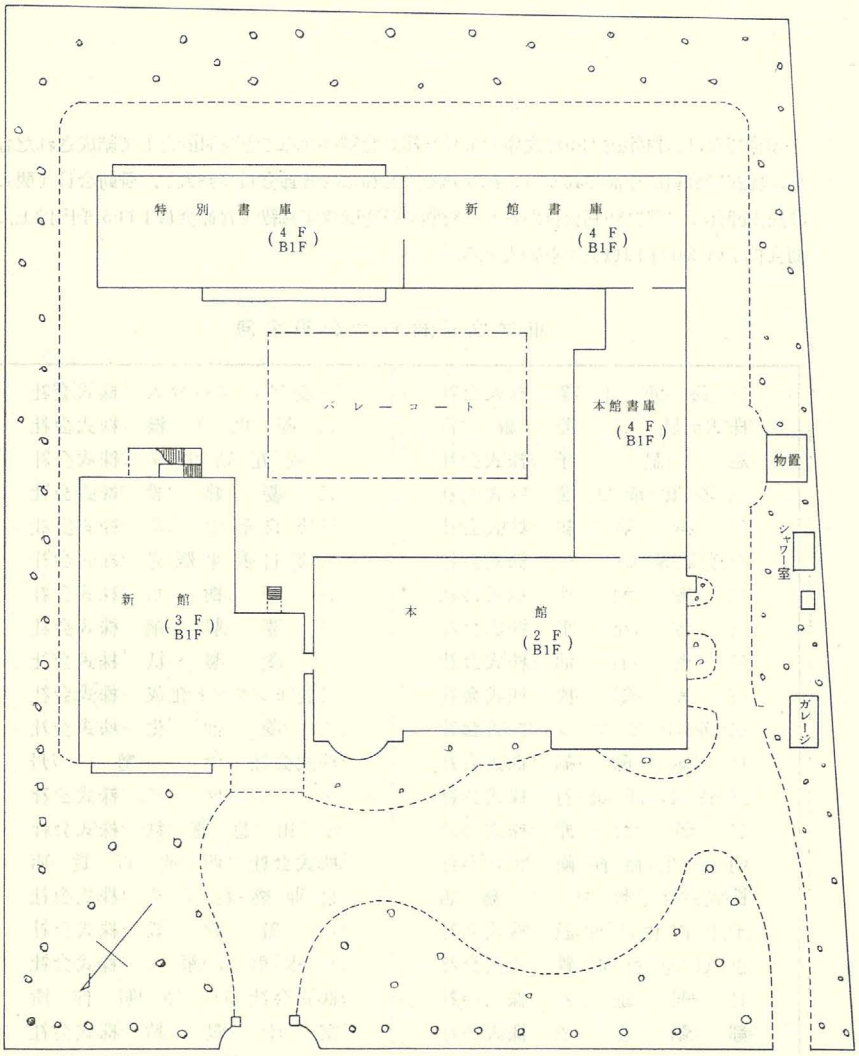
年別	理事長	専務理事	理事	評議員	監事
昭和55年 (1980年)			田中正俊 (昭和56年 6月就任) 徳川宗敬 中村俊男 (昭和56年 6月就任) 松本重治 護雅夫 (昭和56年 6月就任) 山本達郎	中嶋敏 (昭和56年 6月就任) 中田乙一 (昭和56年 6月就任) 中山素平 長谷川周重 日比野丈夫 (昭和56年 6月就任) 平野龍一 (昭和56年 4月就任) 俣野健輔 (昭和56年 6月退任) 向坊隆 (昭和56年 3月退任)	

(昭和56年7月31日現在)

財団法人東洋文庫組織図



財団法人東洋文庫建物配置図



Ⅵ　東洋文庫維持会

本維持会は，財団法人東洋文庫の事業を援助発展させることを目的として結成されたもので，現在の会員は下記の通り45社である。会員には普通会員（個人），賛助会員（個人又は法人団体），及び特別会員があり，特別会員を除き年会費（普通会員1口5千円以上，賛助会員1口50千円以上）を納入する。

東洋文庫維持会会員名簿

三菱重工業株式会社	三菱アルミニウム株式会社
株式会社三菱銀行	三菱化工機株式会社
旭硝子株式会社	三菱瓦斯化学株式会社
三菱化成工業株式会社	三菱建設株式会社
三菱金属株式会社	三菱自動車工業株式会社
三菱鉱業セメント株式会社	三菱自動車販売株式会社
三菱地所株式会社	三菱樹脂株式会社
三菱商事株式会社	三菱製鋼株式会社
三菱石油株式会社	三菱製紙株式会社
三菱電機株式会社	三菱モンサント化成株式会社
三菱レイヨン株式会社	三菱油化株式会社
日本郵船株式会社	株式会社伊勢丹
三菱信託銀行株式会社	エーザイ株式会社
三菱倉庫株式会社	小田急電鉄株式会社
明治生命保険相互会社	株式会社西武百貨店
株式会社竹中工務店	東亜燃料工業株式会社
千代田化工建設株式会社	戸田建設株式会社
東京急行電鉄株式会社	日本信託銀行株式会社
日興証券株式会社	株式会社日立製作所
麒麟麦酒株式会社	富士紡績株式会社
東京海上火災保険株式会社	本田技研工業株式会社
日本光学工業株式会社	精工産業株式会社
三菱アセテート株式会社	計　45社

（昭和56年3月31日現在　敬称略・順不同）

Ⅶ　財団法人東洋文庫附置
ユネスコ東アジア文化研究センター事業

1. 調 査 研 究 事 業

1－A. 長期調査研究「アジアの文化価値とその現代的条件への適応」

【年度】　10ヶ年計画第6年度

【概要】　本計画は，本来センターがユネスコ本部に提案し，1974（昭和49）年の第18回ユネスコ総会で採択された研究計画である。この計画実施のために1976（昭和51）年3月に，センターが受入機関となって東京で開催された「アジア地域文化研究機関代表者会議」の決議に基づいて，各国で調査研究が進められているが，センターでは，本年度，次の四つの研究テーマによる調査研究を実施した。

1－A－1.　「アジアの伝統文化における理想像 ― 年中行事と生涯行事の分析 ― 」
（5年計画最終年度）

【概要】　アジア諸民族のもつユートピア思想を，主として実地調査に基づき，各種の行事や儀式の調査・分析を通じて探究することを目的としている。

【専門委員】　中根千枝（委員長），伊藤亜人，内堀基光，梶原景昭，関本照夫，田村克己，柳川啓一。

【事業内容】

研究会

4月16日：内堀基光「イバン族の宗教経験の一側面」
　　田村克己「ビルマから帰って」
6月12日：柳川啓一「アジア各国の歴訪報告」
7月17日：関本照夫「一日の生活の時間的構成 ― ジャワ村落の例 ―」
10月29日：内堀基光「マレーシア連邦における実地調査報告」
1月14日：関本照夫，田村克己「報告書とりまとめに関して」

海外実地調査

調 査 地：マレーシア連邦
調 査 者：内堀基光
調査期間：昭和55年6月22日―7月31日

調査目的：西マレーシア及びサラワク州におけるイバン族の生活調査。

1—A—2. 「アジア諸文化の特色」（5年計画第4年度）

【概要】 日本を含むアジア各地の伝統的芸術・芸能等の文化遺産の現状及び由来を調査し，それらの現代における意味を探ると同時に，それらの比較研究をおこなうために必要な概念を分析・整理することを目的としている。

【専門委員】 小泉文夫（委員長），河竹登志夫，田口安男，前野 嶋，松村禎三。

【事業内容】

研究会

4月22日：サブトノ「ガムラン音楽の真髄」

5月11日：藤森照信「御柱祭について」

6月30日：「ガムラン音楽及び御柱祭の記録にもとづく総合討論」

9月16日：小柴はるみ「トルコ民謡と日本音楽」

10月23日：呂 石基「韓国の伝統芸能について — パンソリを中心として —」

1月 9日：陰里鉄郎「明治期の近代美術 —狩野芳崖・高橋由一を中心として —」

1—A—3. 「アジア諸国における国民統合の理念とその機能」（5年計画第2年度）

【概要】 流動しつづけるアジア諸国において，国民を統合するための理念が形成される契機及びその内容，実際の機能のしかたを明らかにすることを目的とし，主として社会科学的観点から研究を進める。

【専門委員】 衛藤瀋吉（委員長），古賀正則，白石 隆，平野健一郎，広瀬久和。

【事業内容】

研究会

5月 8日：白石 隆「インドネシアにおける国民統合」

6月21日：平野健一郎「満州における日本人と漢民族」

9月 1日：八尾師 誠「パフレヴィー体制崩壊の一瞬」

12月 5日：古賀正則「インドにおける政治的及び経済的統合過程」

1—A—4. 「現代アジア諸国におけるマスコミュニケーションと大衆文化」（5年計画第2年度）

【概要】 アジア諸国において，各国の文化的価値観の形成に重要な役割をもつラジオ・新聞・テレビ・雑誌などのマスコミュニケーションが，実際に大衆文化にいかなる要素を送りこんでいるかを明らかにすることを目的とし，主として人文科学的研究をおこなう。

【専門委員】 辻村 明（委員長），伊藤慎一，稲増龍夫，岩男寿美子，岡部慶三，佐田一彦。

【事業内容】

研究会

4月18日：西岡和夫「アジア諸国における農村の実態」

6月11日：「東南アジア諸国の現地調査について」

7月　3日：生田　滋「マレーシア連邦の成立」

10月24日：「現地調査の方法論」

2月12日：「現地調査のテーマ」

3月12日：「現地調査最終打合せ」

海外実地調査

調査地：タイ，マレーシア，シンガポール，香港

調査者：伊藤慎一，岡部慶三

調査期間：昭和56年3月25日 — 4月7日

調査目的：各地における研究者と研究機関の実態把握と協力依頼及びマスコミュニケーションと大衆文化動向の視察。

1－B．一般調査研究

1－B－1．「東アジア文化研究」

【概要】 東アジア文化の形成に欠くことのできない要素としての「青銅器文化」と「稲作文化」に注目し，資料の収集・整理と共に調査研究を進めることを目的としている。

1－B－1－a．「東アジアの青銅器文化」（4年計画最終年度）

【事業内要】

東洋文庫に寄贈されている梅原末治氏収集の考古資料のうち，中国青銅器関係の図面，拓本，写真その他を約1万枚のカードに整理し，今後の公開研究に備えた。

1－B－1－b．「東アジアの稲作文化」（5年計画第3年度）

【専門委員】 渡部忠世（委員長），飯島　茂，大林太良，佐々木高明，高谷好一。

【事業内容】

研究会

9月22日：「資料作成の中間報告ならびに沖縄の実地調査の検討」

資料の作成

(1) 昨年度おこなった沖縄予備調査の結果をとりまとめた。

(2) 昨年度にひきつづき，日本の稲作地域研究のための視覚的資料として，5万分の1の地図上に地理学・農業学的情報および，民俗民話モチーフの分布を記入した。

1－B－2.　「アジア地域における文化研究機関の実態とその活動に関する調査」（4年計画第2年度）

【概要】　アジア諸国の文化研究機関の活動の実態を知ることは，地域研究の拡充，国際協力の充実強化のための基礎的な条件である。そのため，アンケート調査等を通じて得た情報を英文で公刊することを目的としている。

【事業内容】

日本における文化研究機関のアンケート調査の結果をとりまとめて編集し，刊行した（下記3－D参照）。また，韓国における文化研究機関の実態調査の方法，手続等に関して11月29日，3月7日に専門家会議を開催して検討した。

1－C.　特別調査研究「現代アジアの社会的，文化的環境の現状に関する基礎的調査」（7年計画第2年度）

【概要】　この特別調査研究は，アジア諸国の文化・社会について実験的で，かつ総合的な方法を採用しながら，アジア地域が共通にもっている特質を研究し，アジア地域の実情の把握につとめようとするものである。

1－C－1.　「アジア諸国におけるエリートに関する社会科学的総合調査」

【事業内容】

専門家会議

3月26日：鈴木佑司「東南アジアのエリートについて」と題する発表に基いて討議し，更に今後の事業方針等について検討した。

1－C－2.　「アジア諸国における大衆文化 ― 特に口碑伝承の調査 ―」

【事業内容】

専門家会議

2月21日：山下晋司「サダン＝トラジャの儀礼テクストをめぐって」

梶　茂樹「言語的に見た民話の研究 ― アフリカの場合 ―」

この2つの発表をめぐって討議し，さらに今後の事業計画について検討した。

2.　学術交流及び普及，ドキュメンテーション活動

2－A.　学術交流

2－A－1. 外国人研究者の招聘

イスマイル＝フセイン，マラヤ大学マラヤ研究科教授　Ismail Hussein, Professor, Department of Malay Studies, University of Malaya, Kuala Lumpur

招聘期間：昭和56年3月14日－28日

2－A－2. 外国人研究者による研究会開催

(1) ペーター＝ツィーメ，ドイツ民主共和国ベルリン科学アカデミー研究員　Dr. Peter Zieme, Researcher, Institute of Ancient History and Archaeology, Academy of Sciences of the GDR, Berlin.「ウイグル文書に見える農業及びその術語　Agriculture and its Terminology in Uigur Texts」（55年5月13日）

(2) 全　漢昇，香港・新亜研究所教授。「16－18世紀的中・菲・美貿易」（55年7月15日）

2－A－3. 研究者の海外派遣（日付順）

内堀基光：55年6月22日－7月31日（上記　1－A－1.参照）。

花田宇秋：55年8月7日－9月11日，アラビア語資料・文献の調査・収集のため，イタリア，シリア，エジプト，チュニジア，モロッコ，スペインに派遣した（下記2－C参照）。

伊藤慎一・岡部慶三：56年3月25日－4月7日（上記1－A－4参照）。

2－A－4. その他

今年度，上記3名の外国人研究者（2－A－1，2）以外でセンターを訪れ，センターが情報提供等，便宜供与した外国人研究者は以下のとおりである。

Mr. Kim Tai-joon	Visiting Professor, Tokyo University of Foreign Studies
Mr. J. A. Traksel	Advisor, Inter Documentation Company, Zug
Dr. Vladimir Gelbič	Third Secretary, The Embassy of the Czechoslovak Socialist Republic, Tokyo
Miss Hsiao Yi-chi	Student, Graduate School of Arts and Sciences, St. John's University, Jamaica, N.Y.
Miss Lynda Fujie	Ph.D. Candidate, Columbia University, New York
Dr. Minoru Kiyota	Professor of Buddhist Studies, University

	of Wisconsin, Madison
Dr. Aaron K. Koseki	Professor of Buddhist Studies, University of Illinois, Urbana
Dr. Htian Aung	NHK Overseas Broadcasting Department, Tokyo
Dr. Helen Hardacre	Instructor, Department of Religion, Princeton University, Princeton, N. J.
Prof. Richard Shek	Professor, Department of Humanities, California State University, Sacramento, Calif.
Mrs. Mei Ching Oey-Liu	Editorial Secretary, "Gazette," Institute of the Science of the Press, University of Amsterdam
U Thaw Kaung	Chief Librarian, Central Library, and Head of the Department of Library Studies, Arts and Science University, Rangoon
U Maung Maung	Librarian, Arts and Science University Library, Mandalay
Dr. Henry G. Schwarz	Professor, Western Washington University, Bellingham
Mr. Zhang Cheng-zhi	Researcher, Nationalities Institute, Chinese Academy of Social Sciences, Peking
Mr. Othaman bin Mohd. Yatim	Curator of Oriental and Islamic Arts, National Museum, Kuala Lumpur
Ms. Elizabeth Louise Rose	Programme Officer for Culture, Communication, and Social Sciences, New Zealand National Commission for Unesco, Wellington
Mrs. Yuriko Wild	Corresponding Member, Bern University Library
Dr. Alexandr M. Grigoriev	Head of Far Eastern Department, Institute of Scientific Information on Social Sciences, Academy of Sciences of the USSR, Moscow
Mr. C. Christopher Drake	Ph. D. Candidate, Harvard University, Teaching at Atomi Gakuen Women's University

2－B．　文献目録等の作成

2－B－1.　「日本における近代中国研究の現状」調査

【連絡委員】　市古宙三（代表），安藤彦太郎，今堀誠二，衛藤瀋吉，川勝　守，河地重蔵，菊池英夫，鈴木中正，田中正俊，藤本　昭，堀川哲男，山田辰男。

【事業内容】　例年通り，アンケート方式により国内の近代中国研究者の姓名，住所，現職，専門領域，業績の調査をおこない，カード化した。このカードは東洋文庫近代中国研究室参考図書室で研究者への便に供されているほか，ロンドンの China Quartary に送付されたうえで，そのリスト刊行に利用されている。

2－B－2.　「日本における中央アジア研究文献目録」の編集（5年計画第3年度）

昨年度にひき続き，日本人による中央アジア関係の研究文献目録の編集にあたり，基礎カードの作成をすすめた。また，2月28日に専門家会議を開催して，編集に関する全般的な検討をおこなった。

2－B－3.　「日本におけるアジア（含日本）研究者一覧」の編集

下記3－Dのシリーズ完成に付随すべきものとして，ひきつづき編集を進めた。

2－C．　資料の調査・収集および整理

本事業は，アジア諸国においてアジア諸言語によって書かれたアジアの社会・文化・歴史に関する学術書・学術雑誌等の刊行物の出版状況を調査して情報を収集するほか，今後のアジア研究に必要な書籍・定期刊行物・文献などを収集し整理することを目的としている。ここ数年来，とくに世界の注目の的となっている中東の研究に関係する，アラビア語・トルコ語・ペルシア語文献の調査・収集を進めてきている。

本年度は，東洋文庫研究員の花田宇秋氏を中東，沿地中海各国に派遣し，研究・出版状況を調査したほか，計約270冊のアラビア語文献を購入した。また，テヘラン滞在中の東洋文庫研究員志茂碩敏氏を通じて約20冊のペルシア語文献を，イスタンブール及びアンカラより約240冊のトルコ語文献を購入し，それぞれ整理を進めた。これらは従来通り東洋文庫に於て研究者の閲覧に供される。

2－D．　語学講習会の開催

ビルマ語講習会

期間：昭和55年7月14日（月）－8月22日（金）　毎週月曜日から金曜日　午前9時より正午まで。

会　場：電通生協会館（駒込）
講　師：藪　司郎，ティンアウン
修了者：17名

2－E.　図書の寄贈及び交換

本年度も従来どおり，センターの出版物を国内の大学，研究所，在日各国公館など約200個所，国外の大学，研究所，国際的機関など約300個所に定期的に寄贈した。また国内の研究機関約50個所，国外の研究機関約100個所から定期的に出版物の寄贈をうけた。

3.　出版物の作成

3－A.　機関誌 East Asian Cultural Studies の刊行

本年度は，Vol.XX，Nos，1－4合併号（153ページ）を刊行した。内容は，53年度に終了した「アジア諸国の教育の目標」でとりまとめた報告書の前半部分である。タイトルは Tradition and Modern Education in Asian Countries で，その目次は下記のとおりである。

Tradition and Modernization of Primary Education in Selected Asian Countries, by Genichirō Tsuda

Traditional Society and Modern Education in Kenya : The *Harambee* Schools in Reality, by Toshio Toyoda

The Introduction of a Modern Educational System in Egypt, by Akira Gotō

Mahatma Gandhi, His Educational Thought and Practice, by Kazuhiko Hironaka

The Development of Education in Burma, by Tōru Ōno

A Note on the Rural Community and Education in Thailand, by Takashi Tomosugi

3－B.　アジア史料叢刊（英文）

52年度に刊行した『ラーマ一世年代記』第1巻 ―本文篇― につづく，第2巻註釈篇の編集を進め，また，チャン＝ヴァン・ザップ著，グエン＝カク＝カム翻訳『ベトナム書誌』の英文編集を継続しておこなった。

3－C．　東アジア文化研究叢書（英文）

3－C－1.

金　東旭『朝鮮文学史』別冊「文献目録・索引・地図・年表」（History of Korean Literature, Bibliography, Index, Maps, Chronological Chart of East Asian History），85ページを，昨年度の主編に続いて刊行した。

3－C－2.

本シリーズの No. 21として，レスリー＝バウソン著『メキシコとフィリピンの経済関係：1606－1804』（Deficit Government：Mexico and the Philippine Situado，1606－1804，written by Leslie E. Bauzon），207ページを刊行した。目次は下記のとおり。

Preface
Acknowledgments
Introduction
1. The Peculiar Dependence of the Philippines upon Mexico
2. The State of the Philippine Treasury
3. The *Situado*：Mexican Financial Aid
4. The Philippine *Situado*：Uses and Ramifications
5. Toward a Self-Supporting Philippine Government
Conclusion
Appendix
Notes
Selected Bibliography
Index
Maps

3－C－3.

黄　福慶著『清末留日学生』の翻訳・編集を進めた。

3－D．　文献目録等の出版

『日本におけるアジア文化研究機関』（英文　Research Institutes on Asian Studies in Japan）213ページを刊行した。

4. 業務報告

A. 運営委員会・顧問会議

運営委員会

前期　開催日　昭和55年5月27月（火）

報　告　1. 昭和54年度事業報告及び決算報告について

議　題　1. 昭和55年度事業計画案及び予算案について

2. 運営委員の改選について

3. 顧問の辞任について

後期　開催日　昭和55年11月18日（火）

報　告　1. 昭和55年度事業及び会計中間報告について

議　題　1. 昭和56年度概算要求について

顧問会議

開催日　昭和55年5月27日（火）

報　告　1. 昭和54年度事業報告及び決算報告について

議　題　1. 昭和55年度事業計画案及び予算案について

2. 運営委員の改選について

3. 顧問の辞任について

B. 役員異動

異動月日	役職名	氏　名	就退区分	備　考
55. 4. 8	運営委員	吉川幸次郎	逝去	日本芸術院会員　京都大学名誉教授
55. 4. 11	〃	中根千枝	就任	東京大学東洋文化研究所所長
55. 4. 15	〃	藤田勇	〃	東京大学社会科学研究所所長
55. 4. 17	〃	福永光司	〃	京都大学人文科学研究所所長
55. 5. 12	〃	仙石敬	退任	前文部省学術国際局ユネスコ国際部長
55. 6. 5	〃	山本学	就任	文部省学術国際局ユネスコ国際部長
55. 6. 6	〃	鹿子木昇	退任	前アジア経済研究所所長
55. 6. 7	顧問	篠沢公平	〃	前文部省学術国際局長　日本ユネスコ国内委員会事務総長
55. 6. 13	〃	東畑精一	〃	東京大学名誉教授
55. 6. 20	運営委員	森崎久寿	就任	アジア経済研究所所長
55. 7. 4	顧問	松浦泰次郎	〃	文部省学術国際局長　日本ユネスコ国内委員会事務総長
55. 10. 4	〃	今日出海	退任	前国際交流基金理事長
55. 10. 14	〃	林健太郎	就任	国際交流基金理事長
56. 3. 8	運営委員	松本信広	逝去	慶応義塾大学名誉教授
56. 3. 10	顧問	平塚益徳	〃	日本ユネスコ国内委員会会長

C. 職員異動

異動月日	職名	氏　名	就退区分	備　考
55. 4. 1	研究助手	秩父良子	就職	

D. 受　賞

年月日	役職名	氏　名	区分	備　考
55. 5. 3	所　長	河野六郎	叙勲	紫綬褒章
〃	運営委員	尾高邦雄	〃	勲三等旭日中綬章
〃	顧　問	前田充明	〃	〃
56. 3. 13	運営委員	前田陽一	選任	日本学士院賞

E. 表　彰

年月日	役職名	氏　名	区分	備　考
55. 11. 19	研究助手	秩父良子	勤続	財団法人東洋文庫より勤続20年

F. 会計報告

昭和55年度ユネスコ東アジア文化研究センター収支決算書

（昭和56年3月31日現在）

収入の部		支出の部	
科目	金額(千円)	科目	金額(千円)
民間学術研究振興費国庫補助金	75,483	経常費	52,013
コネスコ援助金	830	人件費	47,723
財産収入	12	事務費	4,290
雑収入	1,033	事業費	25,345
		研究経費	8,658
		長期調査研究費	6,487
		一般調査研究費	1,669
		特別調査研究費	502
		研究者の交流及び普及活動経費	2,712
		研究文献の収集・目録の作成・翻訳出版等経費	13,975
計	77,358	計	77,358

G. 国庫補助金年度別受入額一覧

年度別	受入額	年度別	受入額
	千円		千円
36	10,000	46	27,177 (27,600)
37	11,000	47	30,430 (31,000)
38	12,000	48	38,636 (39,500)
39	12,571	49	49,277 (50,000)
40	12,550	50	56,079 (58,000)
41	14,257 (14,500)	51	59,845 (60,565)
42	15,622 (16,000)	52	64,864 (65,572)
43	16,700	53	70,266 (70,756)
44	21,466 (21,700)	54	74,491 (75,000)
45	24,061 (24,500)	55	75,483 (76,346)

(　) 内は当初予算額

5. 役職員名簿

昭和56年3月31日現在のユネスコ東アジア文化研究センターの役職員は以下のとおりである。

A. 所　長　　副所長

河野六郎　　護　雅夫

B．運営委員

氏　　名	現　　職
伊藤良二	ユネスコ・アジア文化センター理事長
岩生成一	日本学士院会員
梅棹忠夫	国立民族学博物館館長
岡野　澄	東京工業高等専門学校校長
大崎　仁	文部省学術国際局審議官
尾高邦雄	東京大学名誉教授
菊地勇次郎	東京大学史科編纂所所長
北村　甫	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所所長
高田　修	東京国立文化財研究所名誉研究員
伊達邦美	国際交流基金専務理事
中根千枝	東京大学東洋文化研究所所長
中村　元	東方学院長・東京大学名誉教授
服部四郎	日本学士院会員・東京大学名誉教授
福井康順	早稲田大学名誉教授
福永光司	京都大学人文科学研究所所長
藤田　勇	東京大学社会科学研究所所長
前田陽一	国際文化会館専務理事
森崎久寿	アジア経済研究所所長
山本達郎	日本学士院会員・東京大学名誉教授
山本　学	文部省学術国際局ユネスコ国際部長
渡部忠世	京都大学東南アジア研究センター所長

C．顧　問

氏　　名	現　　職
林　健太郎	国際交流基金理事長
前田充明	財団法人文教協会会長・城西大学名誉学長
松浦泰次郎	文部省学術国際局長・日本ユネスコ国内委員会事務総長

D. 参　与

氏　　名	現　　職
青山秀夫	京都大学名誉教授
織田武雄	〃
田村実造	〃
長尾雅人	〃
丸山真男	東京大学名誉教授
三上次男	〃
宮崎市定	京都大学名誉教授
宮本正尊	東京大学名誉教授

E. 専門員

William Dean Kinzley

F. 職　員

職　　名	氏　　名
調査資料室長	生田　滋
普及室長	外池明江
庶務外事室長	松前義治
研究員	梅村　坦，本庄比佐子
研究助手	坂本葉子，設楽靖子，秩父良子
係員	直井靖夫，西山敬子

G. 臨時職員

昭和55年4月1日から昭和56年3月31日に至る間に臨時職員として在籍した者は，以下のとおりである。

石井妙子，石川むつみ，内野佳子，大井得恵，川崎正子，片山章雄，私市正年，田中明良長縄誓子，中野峰子，保坂修司，宮田　律，森川孝典

財団法人 東洋文庫年報 昭和55年度

昭和56年10月25日 発行　　非売品

発行者　東京都文京区本駒込2－28－21
財団法人 東洋文庫
榎　一雄

印刷者　東京都板橋区高島平3－11－6－1108
有限会社 日本興業社

発行所　東京都文京区本駒込2－28－21
財団法人 東洋文庫

本書は昭和56年度財団法人東洋文庫に対する文部省補助金の一部によって刊行されたものである。